

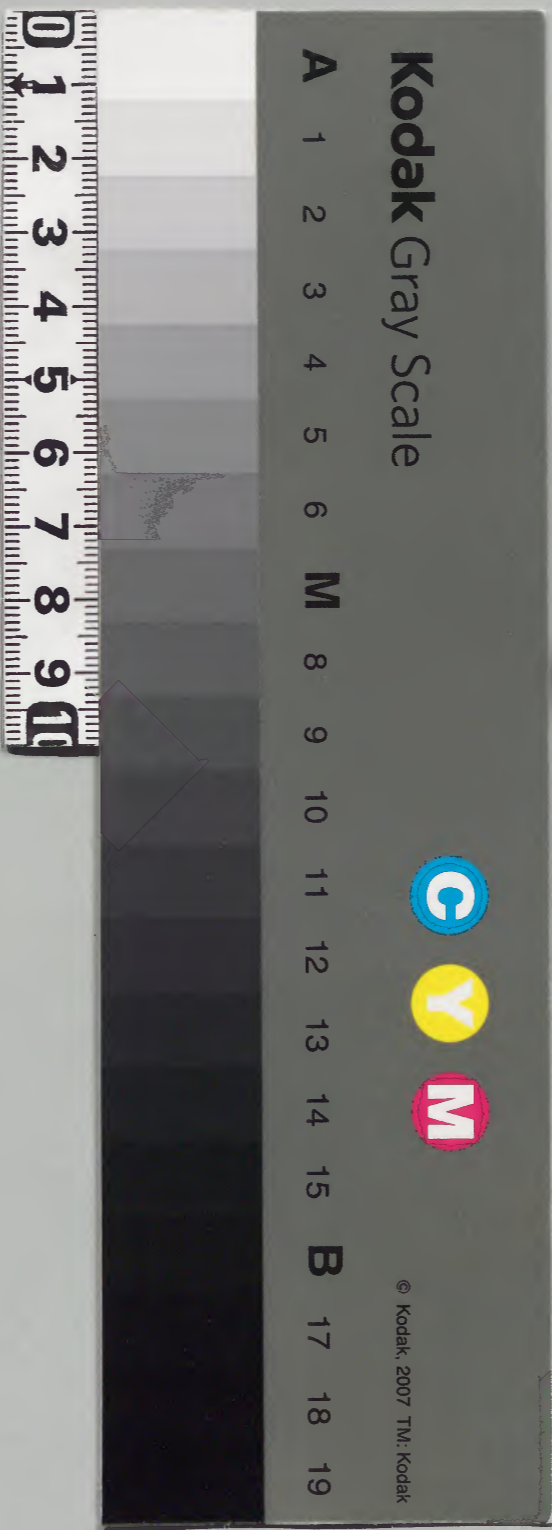
日本書紀傳 廿九卷二

和 一〇五二號

九十四

内閣文庫			
番號	和	10522	
冊數	156 (103)		
函號	特	85	1

内閣文庫



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

教部省  
文庫印

島首明神  
文庫印

島首明神  
文庫印

内一三六八三號

所よりて其神等の御座所ハ豊村の海中ハ在リ小島  
 あり社説ハ素戔嗚尊新羅國曾尸茂梨の地ハ到給ハ  
 時先此島ハ鎮給ハ此島神威有テ古來ヨリ人登ル事  
 能ハズ若誤テ磯邊ハ寄ル事有ルバ忽ハ祟給ハ所以  
 小此島ハ社無く唯此一島を以テ神社トシ島首明神  
 ト称すト云ルハ本ヨリノ素戔嗚尊ト此時ノ大三輪  
 神ト共小此海島ハ御在リ坐ルありけり此島首明神  
ト申すハ素  
 戔嗚大神ノ此地ハ始テ到リ給ヘリ御事を思ヒ  
 テ土俗ノ称奉ル社号ありむガ島首を志摩須ト訓  
 ム趣あり然ルバ島爲りて此島を首めて作給ヘリ謂  
 小ヤ又此大三輪神を那袒師明神ト申すト詳あり  
 事あり若クハ那ハ大汝ノ略シテ袒師ト云ハ此大  
 神ハ天下を経營カ島ノ事物を始給ヘリ師袒ノ義ハ

○日本書紀傳二十九

○四十三

ろのや何れふしても土俗の方言に見ゆ ○國作大己貴命地神本紀ハ國造大穴牟遲命と作り出雲神賀詞ハ國作坐志大穴持命と有ハ殊ハ崇マ入申せらりて天照太神を天照坐太神と申奉ル小同ト出雲風土記ハ多く所造天下大神大穴持命と有ル右小同ト偕大己貴命ハ國作と冠ふルせて称奉ル意ハ次小夫大己貴命與ル彦名命戮カ一心經營天下と有テ二神相共ハ國土を作成し給へれども御父大神の御事依ル依テ主張ハして主と御在リ坐ハ此神ハ坐故ハ然称奉ルあり大倭三輪神三社鎮座次第ハ初伊弉諾伊弉册二神共爲夫婦

生大八洲國及處ニ小島而地維如水母浮漂之時大己貴命與ル彦名命戮カ一心殖生蘆葦固造國地故號曰國造大己貴命因以稱曰葦原國と有テ其並びて共ニ小經營ヲ給へルを其ハ一柱の方ハ國造ハ彦名命と稱申スを以知べシ同書小腋上池心宮御宇天皇御世神明憑吉足日命曰吾國造大己貴命也略下有て御親御名棄爲サせ御在リ坐ケ御事を思合ス可キ者ありリ大己貴命と申奉ル御名の義ハ己ハ傳サ三百十七九トナ小注ハ奉ルが如く國神の首領ハ御在リ坐テ甚ナ功ナ小尊ク御在リ坐ス義ありハ然ル物ハ

△と猶万葉集に  
大治以彦名能神社  
者名若始鷄目名  
耳字名兒山跡買  
而云、有歌を  
以曉さむハ先  
神を大名サ名申  
せ即國土の事  
其を作成一給  
不固て其物有  
其物有ハ隨ひて  
物ハ号ハ謂ふ  
思ハ其然ハ所ハ  
知ハ其ハ一猶下  
百下又彦名命の  
所ハ云

かて又此を大名持神と申す時ハ國土ハ在ゆ國神  
ハ一ハ國々を區別て相持たせハ依て名持と云て  
上十七ハ謂ゆ國主又ハ地主トモハ地主ハ等一を其を總ね  
御在ハ坐す義を以て上ハ大と置て大名持神ハ稱  
奉れハかて大己貴神ハ大名持命と御名ハ少クあり  
差異イハレハ有て聞ゆあり偕其名と云ハ土地の事ある由  
も其ハ云ハ 纂疏ハ國作大己貴命者興作國家且其名  
其意を盡一給ハ谷重遠ハ國作褒作國之功云云  
ハ宜一然れども大己貴名有矜憐之意と云ハ何事  
ハ此大神ハ一御父素戔嗚大神より己ハ大國主  
神たれと依され奉給ハ許の貴キ神あり御在ハ坐  
故ハ其生出させ御在ハ坐けり時より己ハ大己貴神  
の御名渡させ給へるハ御身自矜憐の意御在ハ坐

△元孝天皇實錄  
仁和二年六月十八日  
丙子授常陸國正六位上  
造神從五位下  
下ハ見なたる此郷  
造ハ久遠都久理  
訓ハ外無  
大隅事ト郷ハ日者  
造國神勅使者遣  
此村今見消息云  
ハハハハハ

て自称カ給へハ非ハ證あり此天下ハ在ゆ國神  
の君長として最貴ク渡らせ給へる故ハ他より崇  
奉ハ尊し奉りて稱 偕其神賀詞ハ一所ハ國作坐  
大己持命と出たるハ一所ハ打任せて唯ハ國作  
大神と出たるハ出雲風土記ハ所造天下大神と  
ハ所造天下大神命とモ有ハ同ハ又日吉神道秘密記  
ハ大比魯大明神大己貴命又大國主命又大國作命又  
大國玉命と見え又大宮大國主神又大國作神云云と  
モ所見たれば大國作神と稱奉れり御名ハ御在ハ坐  
けりありけり其ハ神名式ハ肥後國阿蘇郡國造神社  
と申す此三を以て天下ハ推廣げて思ふハ各國ハ此

神の地を區別て作成し其宰持として仕奉れり神の  
數多御在し坐む其君主小渡りせ給ふ所以を以て稱  
奉れり御名ありけり然計り廣き天下を此大神の悉  
小御身自作りせ給ふ可き小非ず國內諸神ハ皆此大  
神をしも君主と仰り奉りて各其境を有ち仕奉り  
可き御事上十五云々大國主神の御事小思合せて  
あむ曉り可りけり故其國を作と成すといハ共小一  
事あり小就て考る小己小傳廿六二百四カも注せり  
事ありガ神名式小伊勢國度會郡狹田國生神社坂手  
國生神社大間國生神社多氣郡國生神社と申末御在し坐る右の國生クニナリ

神と申すハ傳廿三三十五カ注せる國神の事小  
して謂ゆる地主神是あり其ハ同郡國津御祖神社を  
儀式帳小ハ國津御神社と作て祖字無きハ例の國神  
の義ありけり小祢國生神兒字治比賣命形石坐と有  
り此を以て其然り所以を曉り可し若て右の坂手國  
生神社小就て又式小越前國大野郡國坂門一事神社  
國生大野神社坐ハ由有る事ハ非ど然れバ何れ  
の神小在れ其國を作成て其地小主たり神を國生神クニナリ  
といハ申すありけり又其國津御神の例ハ式小山城國  
綴喜郡地祇神社相樂郡國田國神社大月次伊勢國度新嘗

會郡國津御祖神社度會國御神社多氣郡國乃御神社  
 飯高郡久尔都神社武藏國入間郡國沼國神社常陸國  
 佐波波地祗神社陸奥國信夫郡東屋國神社會津郡  
 養國神社越前國坂井郡國神社備前國御野郡國神  
 社壹岐島石田郡國津神社三河國神名帳小從五位上國津天神坐八名郡見元備前國神名帳小三  
 野郡從四位下國津明神兒島郡從五位下國津明神筑  
 後國神名帳小郡不知辛島國神御井郡國津神山門郡  
 國神社あど有る數多の中何神ハ在レハ大己貴神あるも有べ  
 けれどハ大抵其地方何神ハ在レ就て地主神ハ坐ハを祀ルを  
 某國神ハ申せハあり若使大己貴神あハ有てハ

其地ハ限ル御靈ハ天下ハの惣ハてハ小巨ハ大國主神  
同神ハ申ハふハ也  
ハ異ハありと知べハ然ハハ國造神又ハ國生神又ハ  
 國津神を惣ハねハたハ御名即此國作大己貴命ハ渡ルせ  
 給へハ唯ハ大國作神ハ何ハとハ稱へ奉ルざハ  
右ハ注セるハ肥後國國造神社ハ國造本紀小阿蘇國  
 造瑞籬朝御世火國造同祖神八井命孫速甕玉命定  
 賜國造ハ有ル此命を祀ル由ハありハ例ハの如ク久迹  
 能美夜都古ハ訓ハべハ狀ハありハ古ハよりハ國作ハの如ク  
 訓來ハれハ其國造ハ職名ありハ神名ハ此任國ハ就  
 後小國をハ作成ハ給へハ由ハ以テ持申せハ別ハあ  
 りハ知ベ又其國生神ハ傳ハ二十六卷ハ注セるハ如  
 く伊勢ハありハ素戔嗚大神ハとハ見ゆハも有ハれハどハ  
 其ハ何れハの神ハありハ有ハぬ可ハ各其地をハ作成ハ給ハ  
 神をハ稱ハ申ハ御名ありハ右ハ大國作神ハの御名有ハ古語  
 拾遺ハ大地主神ハの御名有ハ其國生神ハをハ結ハるハ大  
 國生神ハ云ハ御名も御在ハ坐ハつハむを今傳ハぬハ

△此ハ人世成ハ以ハ來ハ  
 事ハハハ神代ハ也  
 斯ハ例ハ幾許ハ有ハぬ  
 可ハ事推ハて知ハる  
 者ハ也

△四神出生章第七  
一書醜女此云志  
許賣命有る此小  
對して書字あり  
と

○葦原醜男神此小神とも命とも無きハ脱たりふ  
り地神本紀小ハ葦原醜雄命の作り古事記小ハ亦  
名謂葦原色許男神色許ニと記され播磨風土記小ハ  
葦原志舉多命と作り偕此葦原ハ葦原中國豐葦原千  
五百秋端穂國ふと云ふ是なるが己小國土の始より  
専生立ちたり物あるを猶此後小大己貴女彦名神の  
國作の御時小蘆葦を殖させ御在り坐けり小因て葦  
原國と稱曰ふ由傳十四二十ハ注るが如く但此御名  
小負ハ一給へり御事小就て以て論有り次小云べり醜  
男公記傳九六十ハ引けたり孝元天皇七年御紀小云

△又關化天皇前  
紀小母曰許賣色謎命  
穂積臣遠祖樹野色  
雄命之妹也と書  
たり

鬱色謎命爲皇后と有る古事記小ハ内色許男命色許  
以音下 妹内色許賣命の作り天孫本紀小ハ饒速日命  
倣此 五世孫鬱色雄命妹鬱色謎命の作り又崇神天皇御紀  
小伊香色雄と有る記小ハ伊賀迦色許賣命伊賀迦色  
許男命の作り天孫本紀小ハ六世孫伊香色謎命弟伊  
香色雄命の作り孝徳天皇大化五年御紀小高田醜此  
之雄と云人名ふと有る醜男とも色雄とも醜雄とも  
書れたり記傳小色許ハ多くハ惡悪とて云言ふれども  
此の御言ハ勇猛を美て云り偕其も人の畏懼り  
方より云れハ彼醜女ふと云以て行けハ同意小歸カッ

めり後世の言小勇猛人鬼神の如くと云り同一  
又思ふ今語小豊く小堅事志許理シッコリも志加理シッカリ  
とも云ふ色許ハ其意ハても有む志許夫都シコブツ云ふ  
言も有りと云れり今俗ハ云所ハ万葉五ニ十九下小志可  
登阿良農比宜可技撫而安禮乎於伎豆人者安良自等  
富己呂信騰八四十五下小然シカトラス不有五百代小回乎あど有る  
志可登是あるが大ハ此神名の醜ハ近一字ハ治定を  
駢字をも用ひたり又記傳ハ云く葦原之と之を添て  
讀ハ誤あり此ハ出雲建又難波根子あどの類ある名  
あれバ必しも之とハ云ぬ例不云れたり實ハ然る  
言あり此事小就て云々事共ハ傳十卷百六十一下不  
須也山目の條又其百六十五下泉津醜女の注とも合  
讀べりあり又万葉十六卷十六下兒部女王唾歌の

左注ハ右時有娘子姓尺度氏也此娘子不聽高姓美人  
之所訛應許下姓醜士之所訛也云々有て美人ハ對  
へたる醜士も此の故此御名ハ一も御父素戔鳴大神  
醜男同いあり故此御名ハ一も御父素戔鳴大神  
の始て呼せ給へるありけり然れども右四下引る鎮座  
次第ハ地推如水母浮漂之時大己貴命與少彦名命戮  
力一心殖生蘆葦固造國地故號曰國造大己貴命因以  
稱曰葦原國と有が如く葦原國と云ふ國名と成れり  
ハ其時の事して此よりハ程經レて後の事ありども  
己ハ二柱御祖神の古よりして國土ハ唯葦原あり有  
一ハ葦原中國と云稱ハ己ハ有來れり一ハ其を  
取て此神の御名ハ負せて大地の悉ミナのを云意あり若



醜男ハ彼泉津醜女ハ並べて見たり此ふを誰  
 も美醜の醜ハ見成事あり一應ハ然る事の如く  
 ねども然らず右の記傳の一説ハ俗の志許理志加理  
 ありても有むりと云ねたるハ造ハ万葉ハ正しと證  
 有れども雖も其言ハ如何あり所より出たる者より詳  
 ありぬを本此ハ敷の言より活機けり語ありけり生  
 島足島神詞ハ皇神能敷坐島能八十島者（ハ有夏あり）又万葉歌ハ  
 天皇之敷坐國等あり多く見え二十ハ夏草乃蒨掃  
 友生布如十一四十ハ夏草之蒨除十方生及如と見え  
 又十一六十ハ沫雪千里零敷十一十ハ大野小雨被敷ふ

斯る類多かりけり右の如く草木ハ生布と云  
 ひ雨雪ハ零敷と云ひ又布德澤或ハ布善政あり云  
 り敷ハ物の及至るを云言あるが此より轉りて物の  
 堅固カタクハも豈饒チカありとも充實ミツカありとも忠許理志加理チカ  
 ハ云あり儲古事記大穴年遲神の八十神の爲ハ寤  
 り給ひけり時御祖命の出りて御父大神の御所  
 ハ奉れ給ふ所ハ其御女の日合爲て還入給ひて白其  
 父言甚麗神來尔其大神出見而告此者謂之葦原色許  
 男即喚入而云云ハ此ハ葦原敷男の意ハ詔給  
 へり此神の参向いせ給へり骨法ミカタナを見行り給

ひて此神が葦原中國を志可と保つ者ありと御心悅  
 ひ小堪させ給ひずして不意く御言小出させ給へる  
此時の御事傳二十六四下委しく注せざるを見合す可し侍此大神りも  
 あり本より此天下を志可と保有たせ給ふ程の此神  
 小御在り坐せば其勇猛く嚴めり侍御事も將世小比  
 一へ無く御在り坐けむ事申すも更あり者あり侍  
 然れバ美醜の醜めてハ且ても非ら證ハ右ハ女神  
 の其麗神來り申させ給ひ又此より以前の事カも其  
 八十神小被焼て死給へる所小尔其御祖命哭患而參上  
 于天詰神産巢日之命時乃遣蜺貝比賣與蛤貝比賣令  
 作活尔蜺貝比賣岐佐直焦而蛤貝比賣持水而塗母乳

汁者成麗壯夫而出遊行とも有て甚く美麗り侍神小  
 て渡らせ給へる由あり侍然れバ醜也口訣小醜者此神  
 も此神形醜也注させ給へる所ハ古記の正上白の  
 合さる事遠り者あり同記白禱原宮段ハ大物主神の  
 丹塗矢小化給へる所小忽成麗壯夫即娶其美人と見  
 え又水垣宮段大物主神の活玉依毘賣小娶給へる所  
 小も於是有神壯夫其形姿威儀於時此無比に見え其  
 下小有麗美壯夫と云ひ又崇神天皇十年御紀倭迹  
 日百襲姫命大物主神の妻と成給へる所ハ語夫曰君  
 常晝不見分明不得視其尊顏願暫留之明日且仰欲觀美  
 麗之威儀と有る夜あり侍美麗り侍御形と見奉り  
 せ給へる侍就て猶白晝小仰觀奉り侍給へる侍あり  
 此等ハ其現身小化て女小娶給へる侍の事小して尋  
 常の御形を云とハ異あり侍雖も此大神の醜り侍御形  
 あり侍御在り坐侍侍御父大神の此小葦原色許男と認  
 たり侍證共あり侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍  
 給へるハ右の如き御心御在り坐て御言小出り給へ

へり少く葦原中國少て並ぶ方無き勇猛く威嚴あり  
 之英武神トスラ少て渡りせ給ふ事をあむ所知者者せ給へ  
 りければ愈此國土を敷有たせ給ふ任小堪給ふ可き  
 神小坐や否やと云事を試させ御在り坐けり偕然  
 辛苦め給へれども先小此者謂之葦原色許男と顯ハ  
 して詔給へる小ハ御父大神より少く矜給へる御氣  
 象の見えさせ給ひて下小於心思變而寢と有る應く  
 所あり故此を以て八十神小飽より辛苦りれて此小  
 參來給へる此神をしも己小殺むとへ為させ給へ  
 る事惣て四度四ニ小及ばせ給へると云も先小葦原色許

△又古事記國作段  
 小名毘古那神の  
 御事と故尔自正於  
 神産巢日御祖命  
 者合告此者實我  
 子也於予之申自找  
 牛俣久岐斯子也故  
 沙葦原色許男命  
 為元房而作堅具  
 國と有て天神の御  
 言小此御名を指て  
 詔給へるも亦右小同  
 一云可き此下書  
 小其時と初大已貴  
 神之平國也と有る  
 限ニ一云と有る  
 有ける傳二十ハ  
 小云と有る合す可  
 今右小集たる樹色  
 雄命伊香色雄命  
 の如きハ男あり然  
 云べしと樹色雄  
 命伊香色雄命と  
 白主右小立給へる方  
 と醜男醜女共ハ難  
 事ありけれハ其  
 具勇猛と所有て

男と詔給へり御言の如く據立て見行ハ給む  
 との御心少て渡りせ給ふ御事申すも更あり備此小  
 並べ云む事甚可畏くハ思ゆれども事の因ありバ云  
 べし抑傳十百六十 謂ゆる黄泉神小有れば其泉黄  
 國を敷居る神あり其四神出生章第六一書小乃遣泉  
 津醜女八人一云泉津 日狡女 有る本より勇猛き神あるを  
 以あり又此を古事記ハハ八雷神と云て 於其八雷  
 神副千五百之黄泉軍令追と有るても其然と所以を  
 知べし故此を以て思ふ時ハ醜男醜女共ハ形体の醜  
 惡ニシ小依て云ハ非ず其志可き為たる所有る物ハ

畏オホこく懼オホまげある物ある謂あるが本ありて其より  
形体の醜惡オホの男女ありて云ハ然る物ハ打見あり懼  
ましく厭オホハオホ物ありバ其語ハ成れりあり有  
けれ其本ハ勇猛オホの方あり（出て醜オホマ、方オホ）出オホて轉オホれり者ありけり然  
ハ醜オホ字ハ依オホて義を説く時ハ此葦原醜オホ男命の御事ハ  
ハ申すも更あり泉津醜オホ女の事ハオホ全オホくハ當りて  
あり醜オホ字ハ釋オホ名ハ醜オホ臭也如臭穢也オホ有る物を如  
何ハ此大神の御上ハ合オホふ事の有む猶下九十二丁大  
國敷神の所故此葦原色醜オホ命オホの御事ハ傳ハれり故事ハ岳  
仁天皇三年御紀新羅王子天日槍來歸焉と有る下ハ  
一云初天日槍乘オホ艇泊于播磨國在于完栗邑下略と見え  
たりハ合せて播磨風土記ハ天日槍命從韓國渡來到

△但天日槍命の  
故事ハ神代ハ  
三百三十一  
十丁ニ註スル如シ此  
ハ御紀ニ就テ云  
ハ

於宇頭河底而乞宿處於葦原志舉乎命曰汝爲國主欲  
得吾所宿之處志舉乎命即許海中尔時客神以劍攬海水  
而宿之と有る汝爲國主ハ汝ハ大國主神ハ坐りて  
り諸此葦原志舉乎命ハ神名式ハ完栗郡伊和坐大名  
持御魂神社名神御在大坐を續風土記と云物ハ中九  
所神秘東五十猛命西大已書命と云り其宇頭河ハ五  
十猛命七十大小由有り其ハ傳二十七五丁小云ガ如  
く丹波國桑田郡伊達神社式ハ見えたりハ宇津根村  
小御在一坐を大隅國曾於郡韓國宇豆峯神社坐小合  
り即許海中と國主ハ坐ガ故ハ海陸共ハ此神の御心

の任ふる由あり此ハ人世の事と雖も神の御上りて  
ハ斯ク御定共の御在り坐て上ハ此大國主神坐て萬  
小政ごち給へハ故ハ各其自由あり事を得ざハ趣  
ありて顯幽共ハ相同トク状あり所見たりけハ諸又古  
事記玉垣宮段出雲大神の御崇の御事ハ依て御子品  
牟都和氣命を遺<sup>遺</sup>給ひけハ所ハ故到於出雲并訖大  
神還上之時肥河之中作黒櫟橋任奉假宮而坐尔出雲  
國造之祖名岐比佐都美<sup>美</sup>饒<sup>饒</sup>香葉山而立其河下將獻大  
御食之時其御子詔曰是於河下如<sup>如</sup>香葉山者見山非山  
若坐出雲之石碓之曾宮葦原色許男大神以伊都玖之

祝大延年問賜也<sup>也</sup>有<sup>有</sup>文を熟思ふハ出雲大神ハ謂  
ゆ<sup>ゆ</sup>杵築神宮あり事申すも更あり其假宮を仕奉ル  
ハ肥河ハ風土記ハ所見たり出雲大川あり岐比佐都  
美ハ同記ハ出雲郡神名火山<sup>山中</sup>略<sup>略</sup>岐比佐加美高日子命  
社即在此山嶺故云神名火山と有<sup>有</sup>此邊ハ住へハ人  
あり<sup>あり</sup>神名を以て名と爲<sup>爲</sup>由傳二十七<sup>七十</sup>ハ注  
ハ如<sup>如</sup>一<sup>一</sup>偕下ハ葦原色許男大神以伊都玖祝大延年  
と詔給へハ祝ハ出雲大神ハ仕奉<sup>佐</sup>國造岐比都美を  
指給へハ少<sup>少</sup>此河下あり香葉山迄を係<sup>係</sup>其大延々  
と美給へハ御言あり此祝を其岐比佐都美ありぬ人

と見られたる故に記傳に石碯之曾宮を神名式に見えたる神門郡那賣佐神社の事あり可く注されたるども文を照應して考ざり誤あり御子の大神宮の詣給へる時其神宮小在て萬小仕奉りしに伊都玖祝と八宣ふ可き事あり備此石碯ハ傳廿八百十七小粗注せしが如く伊曾久麻と訓べきあり其ハ天孫降臨章小大己貴神の今我當於百不足之八十隈將隱去矣限此云矩磨塗言訖遂隱と有る此事を古事記の僕者於百不足八十垺手隱而侍と見えたる此事ありが八十垺手を五十垺とも云べき古言の格あり若し

曾宮の曾ハ隱れたる隈と云言あり熊襲國齋完之空國と云類の曾是なり此ハ天孫降臨章第二一書小高皇產靈尊の勅し給ひて夫汝所治頭露之事宜是吾孫治之汝則可以治神事又汝應住天日隅宮者今當供造と有る天日隅宮の御事を申せり謂ゆる杵築大社是あり然れバ石碯之曾宮と云ハ如五此を以て此神宮もも葦原色許男大神と申せり事知バ十レ碯ハ潜宮ハの義あり事申すも更ありけり又出雲風土條小所以號楯縫者神魂命詔五十足天日杵宮之縱横御量十尋拵繩持而百結八十結下而此天御量持而所造天下大神之宮造奉云と有る五十足を古事記の神産巢日御祖命之登陀流天之新巢云と有る合せて五を行して十足と云ひ又百の誤りして百十足あり由云ハ何れも私説あり此五十足ハ推古

天皇二十年御紀歌小夜須弥志斯和餓於明者弥能訶  
句理摩須阿摩能椰蕪訶礙と有八天之八十蔭と云事  
ありて宮殿門樓の多く列りたるを云あり其と同く  
此の五十足天日栖宮と云も其殿舎の代て足整りた  
るを云事ありれば八十と五十と通ハ一云小例と爲  
べし又右の百不足之八十隈と有る發語を万葉一卷  
の百不足五十日太尔作十三卷の百不足五十規枝丹  
まじり云い又八百万神八十万神を出雲風土記小天神  
千五百万地祇千五百万と云い万葉十三卷小五百万  
十萬神之まじり有て八も弥あり五も弥あり五六八九  
まじり限れり數量ありずして弥の意小云ハ互小相通  
ハ一たる事あり多ありけれハ八十隈とハ五十と  
ハ必云も爲つ可 ○八十戈神古事記小故持其大刀弓  
矢語の格小あり

追避其八十神之時每坂御尾追伏每河瀬追撥而始作  
國也と有より受て此八十矛神將婚高志國之沼河北  
賣幸行之時到其沼河北賣之家歌曰夜知富許能迦神  
能美許登波夜斯麻久尔都麻岐迦泥互遠富登富斯  
故志能久迹迹佐加志賣遠阿理登岐加志互久波志賣  
遠阿理登伎許志互爾其沼河日賣未開戸自内歌曰  
夜知富許能迦微能美許等怒延久佐能賣迹志阿禮婆  
中麻多麻傳多麻傳佐斯麻岐毛毛那賀尔伊波那佐牟  
遠阿夜尔那古斐岐許志夜知富許能迦微能美許登許  
登能迦多理基登母許遠婆故其夜者不合而明日夜爲  
御合也と有を以味る小彼御父大神より生大刀生弓  
矢を賜りて歸り御在り坐て其八十神を退治させ御  
在り坐けり始より負せ給へり御名あり伊弉又其婿

△由下北下云い又其  
主神の申す由下註行  
小注一奉りか如

八千七百七十八歌八千  
 女神自御世之嬖  
 人知亦來告思者  
 有右の御事問の  
 御事と思ひて  
 此七の歌詠  
 八由有と事少傳十五  
 三百三十七の注  
 其須勢理毘賣  
 命小須勢理毘賣  
 申す御事御事  
 坐と以あり又其

后須勢理毘賣命の御歌少夜知富許能迦微能美許  
 登夜阿賀淤富久迹奴斯許曾波。下と詠せ給へるも其  
 程の御事少て此時ハ己小御父大神の御事依を受賜  
 つりて大國主大神少て渡らせ給へれば當昔專國  
 土小在ゆ荒振神を退治させ御在し坐ける御時小  
 かければ八千矛神命と上小置て謠ハせ給へり者  
 少り有けり万葉六四十八千杵之神之御世自百舩  
 之泊渚跡八島國百舩純乃定而師三犬女乃浦者朝風  
 尔浦渡左和寸夕浪尔玉藻者來依白沙清濱部者去還  
 雖見不飽諾石社見人每尔語嗣徳家良思吉百世經而

所徳將往清白濱と有る八千杵神ハ唯上古の久遠ふ  
 る時を云々と思ふ小下小語嗣徳家良思吉の句有り  
 又其反歌二首の中小濱清浦愛見神代自千舩湊大和  
 大乃濱林本と有を思ふ小八千戈神の國平小御在し  
 坐ける間今其風土記ハ傳ハれども其八支神の神代ハ此津を定させ給へる古傳の有を取て詠  
 かり者ありけり即神名式小攝津國八部郡汝賣神社  
 有る是あり傳廿八六十の風土記を引て注せり事有  
 かり考合す可此八千戈神の敏馬又大和太の泊を  
 紀伊國日高郡川上莊小下愛徳六所權現社寒川莊  
 小上愛徳六社權現社二所有り祭神ハ熊野十二  
 所を祀り云り社傳小熊野權現出雲少熊野小近  
 坐し給ひて少り數世を經て後小延喜廿二年十一月



十日の夜半小新宮小祀わ神靈日高川の枝河寒河  
郷ふる大原峯小天降給ふ小其時高宮吉見と云獵人  
其處小卧居たり小其方小當りて光明炫えり天降給  
へる驗を見しとあむ其より七年を經て延長六年二  
月十五日阿多木原小出現し給いて愛徳權現と齋祀  
れり今の笠松村上愛徳權現是あり其より三十一  
を經て寛治五年八月十五日中子形原と云小迂給ひ  
天仁二年二月十三日糸尾宮小鎮座し給ふ今阿田木  
村下愛徳權現是あり由建保縁起小見えたりと云  
諸其建保縁起の水母行國漂よひ大男汝世を始給  
ひし時古志の片道七日行く船泊無れば此神泊を造  
りむと思し食て宮を出て其所小御在し坐て作給へ  
ど畫作給へば夜崩れ七日の間三度作給へど此  
固の敢ず杵舂宮小還給ひて諸神小告て宣はく我此  
泊作らむと思したれども更小作立らる事を得ずして  
還給ふと宣ふ時小熊野神吾彼泊作らむと思し食て  
杵舂神小白給はく我彼泊作らむと宣ふ三日若ハ七  
日又ハ一月若ハ半年若ハ一年の間小作ら可し三年  
小成ら迄見えぬ必問給へて宮出して伴泊小御  
在し坐て作給ふ間ハ泊の中小籠の舟を作りて坐小

大鯨出來て舟あぐり吞奉りて三年小成ぬ時小杵舂  
神の思し食給はく熊野神三年小成ぬ見えぬハ吾  
問給へと言し物をと思し食て出給ひて軍武雄阿須  
賀大明神を彼泊小率て御覽し給ふ小大鯨の爲小吞  
れ給ひて海底小比叟御在し坐せば杵舂神暫思し歎  
き給ふ小阿須賀神申給へりや如何ハ惱給ふ事有  
む我斬出し奉らむとて潮押別て外より阿須賀神斬  
給へば内より熊野神斬給ふ外より切給ひて  
斬出し奉らむ其時杵舂神宣給はく我前小彼泊  
作らむと爲しやど作立て難くして歸りぬ斬給へ  
る鯨の旗多けり彼等敵と但ひ奉ら可し今ハ鹽  
氣離れて由縁の國由縁の郷を尋ねて守護少給へと  
宣ひしや熊野神其言小隨ひて由縁の所を尋ねて  
西より東翼小出行給ふ御装ひハ千尋の御衣胸千尋  
潮小膝浸し給はぎ奇しき神業あり行給ふ云と有  
と或書ハ云り右の大男汝ハ即大己貴神の御事あり  
古志の片道より出雲より越後出羽迄を係て云あり  
可し其熊野神を大己貴神の附屬の神の如く云り此  
小ハ決めて誤有ぬ可し阿須賀神と云ハ大和國飛鳥  
神小て事代主神あり此事實の中ハ取難き事也且

混れたる事も有て疑無し一も非れども此ハ右引  
る万葉歌ハ八千杵神の船津を定めさせ給へる證ハ  
此大神の然許り舟泊の事ハ勞づれせ御在り坐つ  
も物爲させ御在り坐ける御事を徴し奉らむとて  
む諸大倭神社注進狀相殿神條ハ傳聞八千戈神者大  
己貴命以廣茅爲杖令撥平豐葦原中國之邪鬼是時大  
己貴命号曰八千戈神と有ハ此一書大己貴神の興言  
ハ天葦原中國本自荒芑至及磐石草木咸能強暴然吾  
己摧伏莫不知順其文下ハ初大己貴神之平國也云々見えたりと有ル此御時ハ當る可きガ此ハ右  
ハ古事記を引て注るガ如ク此大神の八十神を退治  
させ給へるハ始て其頃專彼荒振神等を摧伏給へる  
御事とあむ力めさせ御在り坐ければ亦名ハ申ふ

今傳十四引ハ引御  
收望月大伴社記  
大己貴命以廣葦原  
八重葦原取押分天下  
地手翔行豆天下  
亥晚巡給豆東國  
之五月蠅聲如須  
邪神乎神拂亦拂  
平賜而ハ有ハ  
も其ハ千戈神ハ申  
奉り間ハ御事  
あり

ガハ姑ク御本名ハ爲給ひ御在り坐り事彼沼河比賣  
命ハ御贈答の御歌ハ右の注進狀ハの趣を以て見奉  
り知べしあり又其注進狀ハ神代卷曰大己貴命即以  
平國時所杖之廣茅獻皇孫曰吾以此茅有治功皇孫若  
用此茅治國者必當平安矣今我當於百不足之八十隈  
將隱去矣言訖即躬披瑞之八坂瓊而長隱常世郷者矣  
此茅亦上古在天皇大殿之内其藏齋爲八千戈神之神  
体ハ有る此茅以下ハ社傳ありて其より以上ハ此天  
孫降臨章の文あるガ今傳ハ本ハ異ハあり所有ガ甚勝りて愛れ  
ければ引出つ吾以此茅有治功ハ申給へるハ此廣茅

△三社神体秘記  
大和社三社の中、廣  
矛魂神と出たり、  
此八十支神の唐堂  
に坐す御魂の御名  
なり

△播磨風土記神前  
郡の文小所以之八  
千軍野者天日槍  
公命軍在八十支同  
八十軍野と有り  
此の例は非ずと雖  
も八十の言同じ

を取持して荒振神を摧伏せ國土經營の御功御在  
坐す由あり倍此矛を以て八十支神の神体と爲て御功の御在り奉る  
事ハ此大神の御稜威甚可畏く御在り坐して向ふ所悉  
小敵無くと云狀ありければ此一の廣矛を以て八十  
の敵小當り給ふ義の御名小あむ渡りせ給ひけり傳記  
九卷八十矛神の下小云く此ハ武威の八十と多くの  
矛を持ち如きの意小稱し御名あり可しと云わたり  
ハ猶刀の入り所足ざると似たり其ハ口訣ハ八十支  
者武威如八十支鋒也と有ると思ひて不意小出されたり  
説ふより纂疏ハ或兵器備足盡軍神也所謂吾以  
此矛有治功云云名實共可見と有る中ハ兵器備足の  
事ハ此小更小由無故此大神の杖せ御在り坐ける其廣矛小  
ハ甚ハ幽深と致さむ御在り坐す御事と所見たりけ

故小御  
せり

然るハ大神の此廣矛を以て珍寶と齋持せ給ひ御  
名あり八十支神と負ハ給ひて天下小比ぶ者無き  
御威勢の御在り坐して有ゆる葦原中國の邪鬼を悉小  
摧伏せ撥平給ひ許多の治功御在り坐けるハ此廣矛  
即岐神小渡りせ給へればあり其證ハ右小引るが如  
く天孫降臨章正書ハ廣矛を以て天孫小獻りせ給  
へるを其第一一書ハ乃薦岐神於二神曰是當代我  
而奉從也吾將自此避去即躬披瑞之八坂瓊而長隱者  
矣と有る此をバ二神の先導として奉給へる者との  
古來說來るハ甚粗き説あり此時の岐神ハ現身小

坐すして廣茅を以て御休と爲させ給へるを申すふ  
ゆ是即彼道饗祭を高天原ゆして行定めて事依り授  
給ふ御政の本是あり此事の始ハハも四神出生章第  
九一書小伊弉諾尊乃投其杖曰自此以還雷不敢來是  
謂岐神と有る此御時小始れり神事あると大己貴神  
小定めて天孫小傳ハれり所由己小傳十二百十二  
四十三八十八小委曲小説奉る如し故其詞小高天  
原尔事始氏皇御孫之命止稱辞竟奉と有る此ハ大己  
貴神ゆり其岐神の御靈の副御在り坐す廣茅を天孫  
小奉らせ給へるを皇祖天神の命令ゆして天孫小授

奉らせ給へる故小今行ハせ給ふ所即皇祖天神の勅  
命小因准ひ奉らせ給ふ由あり然れども其始大己貴  
神の吾以此茅卒有治功天孫若用此茅治國者必當平  
安と申給へる所以を以て道饗祭の神事ハ別ハ傳りて唯此廣茅を用ひさせ給へる  
ハ千戈神の御休と爲て齋奉らせ給へる者あり右の  
注進狀ハ此茅亦上古在天皇大殿之内其藏齋爲ハ千  
戈神之神休と有る古語拾遺御天降段ハ天璽を授け  
させ給へる所ハ茅玉自從と有る此廣茅と右の瑞ハ  
坂瓊曲玉との御事ありが崇神天皇六年御紀ハ先是  
天照太神倭大國魂二神並祭天皇大殿之内と有る其

天照大神ハ天璽御在坐て謂ゆる三種神寶の御事あり別カして倭大國魂神  
の御体の瑞之ハ坂瓊之ハ千戈神の御体の平國之廣茅  
と共ハ御在坐けるを御紀ハ廣茅の御事を漏  
注進狀ハ瑞之ハ坂瓊を漏さねたる所由次六十六  
大國魂神の下ハ注一奉るを見合せて曉る可右  
の瑞之ハ坂瓊ハ大己貴神の國避の御時ハ置給へる  
ハ御紀ハ披字を書ねたる是ありて天璽の中ありハ  
坂瓊曲玉ハ同名ありて異物あり又御天降の時ハ  
ハ此廣茅のハ給へる古語拾遺ハ謂ゆる日矛也此ハ  
共ハ天降し給へる也此ハ用無ねハ注さず其ハ  
傳二十卷六十五下ハ注あり借此廣茅を平田の天朝  
無窮曆ハ曆策の圭尺あり由ハ云ハ猶此御事ハ就  
てハ云ベキ事多しれども此ハ煩ハ煩ハ煩ハ煩ハ天  
孫降臨章の傳二十一卷  
百十下ハ云ベシ  
○大國玉神崇神天皇御紀ハ

ハ倭大國魂神と作ねたる魂字正字あり古事記ハ  
大國御魂神と有て甚愛たり然れども此神を大年神  
の御子と爲るハ誤あり由己ハ傳廿六八十ハ委  
辨たり如く借此ハ上十七ハ注せらる如く大國主  
神の御本体より支別れさせ御在坐て和魂大物主  
神ハ相並ばりて其荒魂ハ分身あり別ハ一神ありて渡  
りせ給へるあり故大倭神社注進狀ハ謹考舊紀曰大  
倭神社在大和國山邊郡大倭邑蓋出雲杵築大社之別  
宮也傳聞倭大國魂神者大己貴神之荒魂與和魂戮力  
一心經營天下之地建得大造之績在大倭豐秋津國守

國家因以号曰倭大國魂神亦曰以八尺瓊爲神体奉齋  
 焉と有が如く大國主大神を主神と爲て左右の手足  
 の如く成りせ御在り坐て其御功用を輔弼け奉給ひ  
 て共ふ其大造の績をよむ得建させ御在り坐けり別社同帳狹  
 井神社條小傳聞狹井神者大己貴命之荒魂大國魂神  
 即當社別社也と云事も有を以て其然る所以を知べ  
 きあり傳十九傳十三十一傳十一四十六  
八十小注るが如く先稻穀の主神小保食神御在り坐  
 を別小宇迦之御魂神御在り坐て其稻穀を播殖る事  
 を世小弘させ給ひ又上小天照大神の御在り坐る小

殊小天照御魂神坐ハ彼石戸隱の御時小日像之鏡を  
 造奉りて招奉りて御功坐を以あり又傳廿三三百  
四上二十小注る素戔鳴大神を擲御氣野命と申  
下上三下三小注る素戔鳴大神を擲御氣野命と申  
 奉る其小對へて大物主神を擲玉命と称申すハ其  
 大神の天下小幸給ふ恩頼を此神を以て布こ給  
 ふ謂あり此小大國主神御在り坐る小其荒魂を大國  
 魂神と申すハ專天下を經營り給へる小此神の主  
 功成り給へる事御名の上小倭又冠ありせ奉るを以  
 知べり然れば各其主神と魂神との差別ハ君王と輔  
 弼との如く又長官と次官との狀小似たり此下小是

△又下四小注せら如  
 く大名持御魂神  
 申すも此大國魂  
 神の御事とて大  
 國と大名持と檢た  
 るのこあり

△傳三十卷百平下  
舊國指保郡廣  
山郷の下引る風土  
記不出雲御産大  
神の有八即此大已  
貴神の荒魂神の  
御事あり故

以百姓至今威蒙思頼、有ハ更あり万葉五二十六下小阿  
我農斯能美多麻多麻比互、有ふど惣て美多麻と云  
ハ外より來りて其主を祐くる義ありガ故ハ和名抄  
神靈類ハ靈日本紀云美太萬一云美加介、有て美加  
介ハ神武天皇戊午年御紀の御言ハ北日負日神之威隨  
影壓躡ミカテと影ミカテして佗より其身を幽ミカテ積ミカテる謂是あり此を  
以て右小云る某魂神と云ふ言義を知ベクあり 儲其  
介と云事ハ就て又思合す可ク事あり有ける其ハ傳  
十卷四百三十三下注せら如く神名式ハ謂由る長門  
國豐浦郡住吉坐荒御魂神社三座 並名神大を臨時  
祭式ハ凡住吉社長門國封祖穀者云、但豐浦郡封戸  
儀夫者便留充御影社と有ハ其荒御魂社の御事あり△  
此影ハ今俗ハ軍の時ハ佗の人の將たり人を擬ひ

△万葉五行皆來  
歌ハ天地能大御神  
等倭大國靈久堅  
能阿麻能見虛喻  
阿麻賀氣利見渡  
多麻比、有ハ大八  
洲全洲の御靈神  
ハ申テ義あり猶

出るを影武者と、若て其大國魂神ハ一も上より次  
云ふと此ハ近、カ云らガ如く國主神の上と坐を以て大國主神と申奉  
り物主神の長として大物主神の御名御在り坐り名  
持神の主たり、ハ依て大名持神と稱奉り國作神又國生  
神を統る由以て大國作神と号奉るあどの例あり各  
國ハ各其大國魂神又國魂神坐り其を悉ハ統領御在り坐を以  
て後ハ倭大國魂神と稱申りて注進狀ハ在大倭豐秋  
津國守國家因以号曰倭大國魂神と有て此倭ハ大八  
洲國の全スバてハ巨々稱あり△古語拾遺ハ生島を是大八  
洲之靈と有ハ此御事ハ巨々給ふ由下三下小説を

△傳三子卷百三十一  
播磨國揖保郡廣  
山郷下小引風土  
記小出雲御蔭大  
神有八即此大已  
貴神の靈魂神の  
御事あり故

以百姓至今咸蒙恩類、有ハ更あり万葉五二十六丁小阿  
我農斯能美多麻多麻比互モ有ふと惣て美多麻と云  
ハ外より來りて其主を祐くる義ありガ故ハ和名抄  
神靈類ハ靈日本紀云美太萬一云美加介と有て美加  
介ハ神武天皇戊午年御紀の御言ハ北日負日神之威隨  
影壓躡ミカケと影ミカケして佗より其身を幽贖ミカケ語是あり此を  
以て右小云る某魂神と云ふ言義を知ベクあり 偕其  
介と云事小就て又思合す可ク事あり有ける其ハ傳  
十卷四百三十三丁小注せら如く神名式ハ謂ゆら長門  
國豐浦郡住吉坐荒御魂神社三座 並名神大を臨時  
祭式ハ凡住吉社長門國封祖穀者云、但豐浦郡封戸  
徭夫者便留充御影社と有ハ其荒御魂社の御事あり△  
此影ハ今俗ハ軍の時ハ佗の人の將たり人を擬ひ

△万葉五行好來  
歌ハ天地能大御神  
等倭大國靈久堅  
能阿麻能見虛哈  
阿麻賀氣利見渡  
多麻比有ハ大八  
洲全洲の御靈神  
ハ申す義あり猶

出るを影武者と若て其大國魂神ハ一も上より次  
云ふと此小近一 若て其大國魂神ハ一も上より次  
ハ云らガ如く國主神の上と坐を以て大國主神と申奉  
り物主神の長として大物主神の御名御在ハ坐一名  
持神の主たるハ依て大名持神と称奉り國作神又國生  
神を統る由以て大國作神と号奉らふとの例あり各  
國ハ各其大國魂神又國魂神坐ら其を悉ハ統領御在ハ坐を以  
て後ハ倭大國魂神と称申して注進狀ハ在大倭豐秋  
津國守國家因以号曰倭大國魂神と有て此倭ハ大八  
洲國の全スハてハ巨と称あり△古語拾遺ハ生島を是大八  
洲之靈と有ハ此御事ハ巨とせ給ふ由下百三丁小説を



見合せて曉々可一偕其大國魂神と申すハ神名式小  
 山城國久世郡水主神社十座の中ハ山背大國魂命と  
 有ハ天孫本紀ハ謂ゆ々玉勝山代根古命あり可事  
 傳十五二百二十六ハ注リ伊勢國多氣郡大國玉神社  
 度會郡大國玉比賣神社度會乃大國玉比賣神社此三  
 社の御事ハ傳廿六二百四十二ハ注リ尾張國中島郡尾張  
 大國靈神社常陸國眞壁郡大國玉神社陸國磐城郡大  
 國魂神社壹岐島石田郡大國玉神社對馬島上縣郡島  
 大國魂神社島大國魂御子神社と有々此二社の御事  
 ハ傳廿三三百三十二ハ注リ右の如く某大國魂神

△猶上野國佐位郡  
 大國神社と本國神  
 名帳ハ從一位大國  
 玉大明神と有リ又  
 群馬郡正五位上大  
 國玉明神と申すも  
 見ゆ筑後國神名  
 帳ハ山門郡正六位  
 上堤大國玉神と申  
 すも見ゆ

と有ハ此神あり其一國の國魂神を攝ぬ給ハ神ふ  
れ其國の魂り打任せて大國魂神と申すあり此神あり渡りせ  
 給へハ神の尊界ハ格別あり其國魂と申す御職  
 あり於てハ此倭大國魂神の部下あり事を得ず又  
 神名式小和泉國日根郡國玉神社攝津國菟原郡河内  
 國魂神社尾張國海部郡國玉神社遠江國磐田郡淡海  
 國玉神社伊豆國那賀郡國玉命神社國玉一本命神  
 社ふど見え猶三河國神名帳ハ正五位下國玉天神坐  
 碧海郡正五位下國玉天神坐設樂郡上野國神名帳ハ  
 那波郡從三位國玉明神碓氷郡從四位上若國玉明神

筑後國神名帳小三潯郡正六位上國玉神山門郡國玉  
 神三毛郡正六位上埴生國玉神あど猶諸國あも多在  
 州あむを悉あハ傳りぞあ可一記傳十三三十  
 小右の國魂神社を舉て何神小在九國を作し坐し功  
 徳有を其國くして國魂とし大國魂とも申して拜祀  
 あり略と云れたるハ然る事少て其謂ゆる諸國の  
 國魂神を御めて此倭大國魂神あむ御在し坐けり此猶  
 下小郡御魂神有し上野國神名帳小多胡郡正五位上  
 郡御玉明神縁野郡從五位上郡御玉明神利根郡從四  
 位上郡玉明神勢多郡正四位下郡玉明神佐位郡從四  
 位上郡玉明神新田郡正五位上郡玉明神邑樂郡從五  
 位上郡玉明神く有る此ハ倭國ハ見當ざり事あり  
 ても必其一郡小限れり御魂神も有ぬ可き者あり

諸崇神天皇六年御紀小先是天照大神倭大國魂神並  
 祭於天皇大殿之内然畏其神勢共住不安と有て皇大  
 宮の内小齋奉りせ給へり趣ありか如何ありても其  
 元始詳あざりけり右小引り注進狀小以八尺瓊  
 爲神体奉齋焉と有り思及なす小天孫降臨章第二  
 一書小大己貴神の國土を避奉給ふ可き御契約御在  
 一坐て即躬披瑞之八坂瓊而長隱者矣と有る此御時  
 小天孫小獻りせ給へりありけり其ハ上六十下六十注  
 せり大倭神社相殿神八千戈神の御体ハ謂ゆる廣矛  
 あり渡りせ給へりを注進狀小此矛亦上古在天皇大殿

今其廣茅大已貴  
 神より天孫を奉り  
 せ給へり御物あり  
 此の共ハ八尺瓊を  
 奉りて御在り坐り  
 り御事右の披ふ  
 かり著明かりけり  
 ハ此三種相離れ御  
 物あり心と著りて  
 此時の瑞之八尺瓊  
 あり事と思定む  
 可

之内と有る亦字ハ其主神と御在り坐す倭大國魂神  
 の御体あり八尺瓊ハ附属給へり由あり然りて古語  
 拾遺天璽を授進りせり所ハ茅玉自從り有るハ  
 專此廣茅と八尺瓊との御事ありて天璽の八坂瓊曲  
 玉と一ハ心得たりり彼天璽の三種神寶と三種神  
 寶と定たり如く掛まくり甚も可畏り僻傳ハ出來ハ  
 たりめて此事の條理を解分り時ハ拾遺の混水をと  
 へハ訂正すハ至りり其辱り恩賜ありり若り注  
 進狀ハ家牒曰腋上池心宮御宇天皇孝元年秋七月甲  
 寅朔遷都於倭國葛城下卯天皇夢有一貴人對立殿戸

自稱大已貴命曰我和魂自神代鎮三諸山而助神器之  
 昌運也荒魂服玉身在大殿内而爲寶 基之衛護即得  
 神教而天照大神倭大國魂神並祭於天皇大殿之内  
 有る此時の神託ハ上十七ハ引り大三輪神三社鎮座  
 次第ハ腋上池心宮御宇天皇御世神明憑吉足日命曰吾  
 大國造大已貴命也太初已命之和魂取託八咫鏡名曰  
 倭大物主櫛瓶玉命鎮座大三輪之神奈備云云ハ有  
 り和魂ハ神代より大三輪ハ御在り坐けり趣あり右  
 ハ荒魂服玉身在大殿内と有るハ其八尺瓊を神体と  
 して本より皇宮の内ハ御在り坐す由りて其始御天降の神代よ

の以來の御事を託奉給へりあり即得神教而天照太  
神倭大國魂神並祭於天皇大殿之内と有ハ右の崇神  
天皇六年御紀ハ先是と有ハ當れり所あり備神託ハ  
在大殿内と有を次ハ大殿之内ハ並祭と有ハ就て思  
ふハ上古よりハ尺瓊を皇大宮の内ハ崇奉ヲ置せ給  
へばども其始ハ唯大己貴神の國避の御時ハ奉給へ  
り神寶として齋し置るゝのこありしを此神託を  
得て倭大國魂神あり事を所知食て此より天照太神  
と共ハ並祭とせ御在り坐す御事と成りし由あり然  
ずハ大己貴神の奉りせ給へり御物を私ハ其荒魂大  
國魂神の御体とハ定奉りせ給ひ難キ御事ふり者ぞ

ハ大己貴神の御上より申す時ハ己ハ其大己貴神  
の御本体ハ天日隅宮ハ鎮り坐し和魂大物主神ハ皇  
御孫尊の近守神として三諸山ハ鎮置給ひ此ハ瑞  
之ハ坂瓊を披給へりハ其荒魂大國魂神として玉体  
ハ服て天津日嗣の鎮護ハ奉置せ給へり御用意あり  
げり此を此孝昭天皇元年丙寅秋七月十四日の神託ハ  
至りて其御旨の明りハ知りし給へりあり備此  
注進狀ハ天皇の御夢ハ入給へり趣あり大三輪  
神ハ社鎮座次第ハ吉足日命ハ神託有り由ありハ  
右の御夢の後ハ大三輪神の祭の事を殊更ハ告給へ  
りありて同御世の事とハ神託あり其よりハ後の事ハ  
て此よりハ別あり備此ハ天照太神と並べ祭る所由ハ下  
七十三丁ハ垂仁天皇 若て其注進狀ハ磯城瑞籬宮御  
紀を引て云べり 崇神 六年百姓流離云云共住不安秋九月己酉朔  
乙丑天照太神託豐鋤入姫命祭倭國笠縫邑仍立磯城  
神籬亦倭大國魂神託淳名城入姫命祭同國市磯邑後

名曰大倭邑然淳名城入姬髮落體瘦而不能祭と有ハ御紀  
 の文ありガ先是天照太神倭大國魂ニ神並祭於天皇  
 大殿之内ト云事を家牒ハ孝昭天皇元年の御事ト  
 爲ラガ故ハ此ハ略テ引ルルガ市磯邑の下ハ  
續紀天手寶字三年の文ハ城下郡大和神山ト見え又  
 後改名曰大倭邑ト云ハ和名抄郷名ハ城下郡大和保  
 夜未ト有ハ合ザレドモ此ハ故有ベシ其市磯邑ハ履  
 仲天皇三年御紀ハ磐余市磯池ト云名有テ磐余ハ十  
 市郡の地名あり此ハ就テ考ルハ古事記ハ御諸山上  
 神を伊都岐奉テ倭之青垣東山上ト有テ神武天皇二  
 年御紀ハ以珍彦爲倭國造ト見え崇神天皇七年御紀

大物主神の御名兼ハ我是倭國域内所居神ト詔給ハ  
 又其神の御事を倭大物主神ト申奉テハ常ホテ其所  
 の神淺茅原を顯宗天皇御紀室壽御詞ハ倭者彼彼  
 茅原淺茅原ト有テ若テ神名式ハ山邊郡大和坐大國  
 魂神社三座並名神大月次相嘗新嘗此ハ後の鎮座ありトモ  
 大和坐ト云レバ地名ありハ其大和郷己ハ城下郡ハ  
 收レテ大和志ハ己廢存海知村ト有テ此ハ大和社  
 ハ郡を隔テ西ハ當テ地あり此を以思ハ今テの山邊  
 郡の半ハ城上城下の二郡を係テ十市郡香山の地  
 面邊ハ亘テ古ハ大倭の地ありゆるを所ハ地名  
漸ク一國の惣テ成カ及びテハ  
各別テ

△又後の大和風坐記ハ  
 山邊郡柳本郷有神  
 号大和神明所ハ  
 大國魂命也ト有テ  
 柳本郷ハ和名抄以後  
 の郷名ト古の證示  
 ハまされハ彼

〇於屋大人の國  
 考小夜麻登云云ハ  
 本彼大和知り始  
 後ハ國の名も成  
 カリ云ハ此名ハ本  
 一國の名ハハ彼神  
 名ハ後ハ倭大國魂  
 神の鎮坐ハ國て  
 其神ハ倭ハ云  
 可ハ今世ハ伊勢國  
 内ハ大御神宮の  
 宮邊ハ指テ伊勢  
 云ハ同ト意味ハ  
 云ハれたハ然ハ事  
 あり右ハ云ハ如ク  
 倭ハ國中ハ平坦  
 あり地ハ東山の邊  
 といハ云ハリハて風  
 土記ハ山國者住  
 山岳多而平地少治  
 天下大神大克持命  
 與テ山開命ハ此  
 國邊ハ山開命ハ平  
 夫故云山開地ハ有  
 事ハ思ハ可ク者ハ  
 少此事委ハ下百  
 八十六下云云

を別ら習ふ事  
 の出來ル小就テ世を經テ終小城下郡ヲテ僅小一郷  
 の名トハ成ル者ありけリ然レバ右小後改名曰大  
 倭邑ト云右の市磯邑ハ倭大國魂神の御在坐一地名小大倭邑名モ殘レケル却リテ其邊の惣号あり一事を忘レテ  
 後小改ナリ一者と思ヘル者ハ有ケル。又注進狀ハ  
 七年秋八月癸卯朔己酉穗積臣遠祖大水口宿禰等共  
 同夢而奏言昨夜夢有一貴人誨曰以市磯長尾市爲祭  
 倭大國魂神之主必天下太平矣天皇得夢辭益歡於心  
 朕當榮樂乃ト使物部連祖伊香色雄爲神班物者吉之  
 冬十二月辛丑朔丁卯命伊香色雄而以物部八十手所  
 作祭神之物即以大倭直長尾市爲祭倭大國魂神之主定

〇此の市磯長尾市と云  
 小神主の在り流れて

神地神戸於是疫病始息國內靜謐五穀既成百姓饒之  
 と有ハ御紀の文ありを彼大物主神の御事を略ス  
 抄出ル者あり但右の注進狀ハ謂ゆ市磯邑ハ穴  
 磯邑を誤ル者あり可一其ハ垂仁天皇二十五年御紀  
 の細書ハ一傳を載レタルハ是時倭大神著穗積臣  
 遠祖大水口宿禰而誨之曰中略時天皇聞是言則命中臣  
 連祖探湯主而ト之誰人以令祭大神即淳名城稚  
 姬命食ト焉因以命淳名城稚姬命定神地於穴磯邑祠  
 於大市長園岬然是淳名城稚姬命既身體悉瘦弱以不  
 能祭是以命大倭直祖長尾市宿禰令祭矣ハ有ハ必右

山城上郡穴師坐兵  
主神社名神大月カ  
有此地

小引崇神天皇六年七年の御事の二小別り傳ハル  
らめて此ハ岳仁天皇の御世の御事ハ非ざり右  
小淳名城入姫命食トハ六年小以日本大國魂神託淳  
名城入姫命令祭ト有、是あり定神地於穴磯邑祠大  
市長岡岬ハ穴磯ハ大名あり大市ハ和名抄郷名小城  
上郡大市於保以知ト有、是あり長尾岬ハ其卷向山の尾  
崎あり地あり皆相接けり所あり是即其七年小亦以  
市磯長尾市為祭倭大國魂神之主ト有と云あり若て  
此人名の市磯ハ上小云、如く十市郡小出たるが長  
尾市ハ後ハ此神を穴磯邑あり大市長尾岬ハ住へる

山

うりの名ありけり此を以て注進狀ハ市磯邑後改名曰大倭  
邑ト有ハ決く穴磯邑の誤あり大和社の舊地あり  
事を知べし其ハ別社狹井神社條ハ傳聞狹井神者大  
己貴命之荒魂大國魂神即當社別社也ト書して下小  
日本書紀曰倭大神著穗積臣云云命大倭直祖長尾市  
宿祢令祭矣所謂大市長尾岬今狹井社地是也ト有を  
思ふハ狹井神社ハ右の崇神天皇七年小初て倭大國  
魂神を祀りせ給へり舊地あり故ハ後ハ山邊郡  
小移祭るハ一時あり其處ハ御靈を留めて祀ひ置せ  
給へる者ありけり諸注進狀ハ右小引御紀の神託の御事を

ハ本社大倭神社の下ハ舉げ狹井神社の所ハ命大倭直祖長尾市宿祢令祭兵の文を載せて其一聯の文を二小分記せらハ其垂仁天皇御世ハ至りて即今の山邊郡大和坐大國魂神社の地ハ移りせ給ひける者トあむ正しく所見たりけり若し其崇神天皇六の髮落体瘦而不能祭ト云ハ垂仁天皇御世の事あり其七年ハ市磯長尾市を神主ト爲させ給へり御事有れども皇女の下ハ立て共々ハ仕奉りありむを垂仁天皇二十六年丁己ハ至りて皇女ハ御齡高御在坐一成一給へりけり其御職を辞して長尾市宿祢ハ令主給へりありけり其二十五年の文ハ離天照太神於豊稻入姫命託于倭姫命ト有る其姫命ト共ハ同一御時ハ齋王ト成て仕奉給ひて此より退給へるを合せ思ふハ此淳名城ハ姫命を崇神天皇六年己丑ハ凡十四五歳ト見え其より垂仁天皇二十六年

丁巳迄凡八十九年ありバ凡百三四歳ありバ既身体悉瘦弱以不能祭ト云事實ハ吐ハリト云ベリ然レバ淳名城ハ姫命の仕奉給ひハ大市長岡岬ハ御在坐一間のミカハ山邊郡ハ及バせ給ハザリけり此ハ倭又注進狀ハ纏向珠城宮御宇天皇無ニ廿七年九月戊申朔甲子以皇女倭姫命爲御杖代貢天照太神倭姫命隨神詣立宮於伊勢國渡遇五十鈴川上奉遷焉是時倭大國魂神著大水口宿祢而誨之曰太初之時期曰天照大神悉治高天原皇御孫尊專治葦原中國之八十魂神我親治大地官者言己訖焉云云大地主神之号起于是時矣ト見えたり此ハ御紀ハ取丁巳年久十月甲子遷于伊勢國渡遇宮是時倭大神著穗積臣遠祖



大水口宿禰而誨之曰、有と同文あり、又異有り、偕御  
紀の下巳年ハ二十六年あるを右ハ、二十七年と有  
カ、冬十月甲子を右ハ、九月戊申朔甲子と有、一  
と一年とハ、差有り、此事下の細注ハ云ベシ、偕皇大神  
の鎮坐る是時ハ、倭大神の神託ヲ御在リ坐リ御事ハ  
上六十下七十ハ注せらガ、如ク注進狀、孝昭天皇元年の文  
ハ即得神教而天照大神倭大國魂ニ神並祭於天皇太  
殿之内と有、甚ク縁あるまじき御幽契の御在リ  
坐リ御事あり、此ハ其並祭るれさせ給ヘカ、所由  
を託し奉らせ給ヘ、あり、太初之期曰、云ハ此倭大

國魂神の天上ハ參升らせ御在リ坐リ天照大神の大  
御許あり、期ヲ聞えさせ給ヘカ、御事を語出させ給  
ヘ、あり、此ハ小皇御孫尊專治葦原中國之八十魂神、  
有ハ其下ハ然、先皇御間城天皇雖祭祀神祇微細未探  
其源根以粗留於枝葉故、其天皇短命也、是以汝御孫尊  
悔先皇之不及而慎祭則汝尊壽命延長復天下太平矣  
と有、即天地神祇の祭祀を專リ治給ふ御事を申サ、  
せ給ヘ、あり、次ハ我親治大地官、有、即其八十魂  
神の事ある、ハ皇御孫尊ハ祭祀を治リ申給ヒ御  
親の御事ハ、スベシ紡御を治リ申給ヘ、あり、此事下十九

六小大地主神の傳を立て説べきあり備出雲風土記  
小意宇郡飯梨郷郡家東南卅二里大國魂命天降坐時  
當此處而御膳食給故云飯成神龜三年有此文を  
引て古史第百三十段徴か如此天降坐る有以て其  
昇事灼云て彼天孫降臨章第二一書小是  
時歸順之首渠者大物主神及事代主神乃合八十萬神  
於天高市帥以昇天陳其誠疑之至と有列た  
實然言して其帥大物主神の神の列御在し坐ざりけ  
れ八十萬神の參上りけり其中小此大國魂神一柱の  
別小物爲させ給ふ可くも非ねば此事實小謂れた

△然して大國魂神  
ハ此時天日隔宮  
日鎮せ給ひた  
り可し傳せし  
十の注あり如く  
聖風土記特條  
大社の並に御魂  
社と云ふを神  
名式ハ大宮持  
神社と云ふ即  
杖葉大社の芒  
魂を祀れり若  
り大倭神社注  
此ハ其社を蓋出  
雲云杖葉大社之別  
社也と云ふ右の  
如き所以有を以  
ふる事云し更  
あり

給へるありけり  
陳其誠疑之至と云々太初之時期曰云々全く事  
の運び相同しきを曉る可し但右小皇御孫尊の御事  
ハ契申させ給ふ可し御事あり天照大神ハ甚上古  
より天原を所知者御在し坐せば此大國魂神の指  
揮ハ及ぶや御事あり故借考る小上章第三一  
書あり素戔嗚尊此天照大神小對ハ給ひて辞見の  
御語小請妙照臨天國自可平安と申給ひて次ハ且  
吾以清心所生兒等亦奉於妙と申給ひて類あり万葉  
二卷柿本人凡作歌小天地之初時之父方堅之天河原  
尔ハ百万千万神之神集二座而神分二之時尔天照日  
女之命天乎波所知食登葦原乃水穗之國半天地之依  
相之極所知行神之命等天雲之八重摺別而神下座奉  
之高照日之皇子波云と有皇御孫尊の御天降り  
御事を云ふ日神の天上を所知行御事を云ふも此  
格あり古言の例と所見たり備右小垂仁天皇二十七  
年と有る七八年の誤あり事下己年たを以て知る  
れたり但御紀小二十七年八月朔を癸酉と有るハ姑  
く大日と見て九月朔ハ癸卯ありけりハ其甲子

持統天皇六年御  
 紀五月廿五日御  
 宣遣使者奉幣  
 于四所伊勢大倭  
 吉紀伊大神告以  
 新宮同十二月辛  
 酉朔甲申遣大夫  
 等奉新羅調於  
 五社伊勢住吉紀伊  
 大倭若名足有  
 以て當首御崇  
 敬世小殊御崇  
 給へ御事と見  
 奉り知べし

廿二日あり但此ハ廿六年の方正しむと其も冬  
 十月と有ハ誤あり通證ハ冬十月當作秋九月海川氏  
 曰以長曆推之此年十月無甲子九月十七日爲甲子至  
 今内宮祭日也と云る不實ハ然ハ有め可く所思た  
 然ハ時ハ崇神天皇六年より此倭大國魂神の御在  
 坐け大市長園岬ハ神名式ハ大和國城上郡狹井坐  
 大神荒魂神社五座鉄と有ハ是ハ其岳仁天皇二十  
 六年小被定たる神地ハ即山邊郡大和坐大國魂神社  
 並名神大月と見えたる是ハ神階の御事ハ文徳天  
 次相嘗新嘗  
 皇寶錄ハ吉祥三年冬十月乙巳朔辛亥進大和國大國  
 魂神階授從二位清和天皇寶錄ハ貞觀元年正月廿七  
 日甲申奉授大和國從二位大和國魂神從一位と見え

たり注進狀ハ新國史曰寬平九年冬十二月壬寅朔甲  
 辰奉授五畿七道諸神三百四十社各位一階官符云大  
 和國大和大國魂神奉授正一位と有り此御時ハ極位  
 小ハ進奉らせ給へりありけり儲中右記ハ永久六年  
 六月軒廊御卜是大和國大和社去二月九日戌刻俄有  
 火寶殿三字并御正体焼亡也と有り此御正体焼亡不  
 審し事あり此ハ鳥羽天皇御世の事あり永久六年  
 改元有て元永元年成りしか此注進狀ハ其よりハ  
 五十年の後六條天皇仁安二年二月十三日祝部大倭  
 直歲繁謹書ハ云ハ奥書有て然ハ奏上の書ありハ御

正体の御在り坐ざり事を云ず且御正体の御事を申  
 す小ハ傳聞と記して昔より誰一人見奉りし人の無  
 き趣ありば御正体の己小焼亡ハ給へるを今も御  
 在り坐りげ小書べくも非れバ此小不審イダクハ云  
 あり儲祭神の御事ハ相殿神二座八千弋神御歳神と  
 有る是ありて三座あり二十二社神体秘記大和坐大國  
 魂神社三座條小大國魂神廣茅魂神御年神加祭神一  
 座大已貴命と所見たる廣茅魂神ハ八千弋神ありて御  
 在り坐す事己小上五十九下小注ルガ如く又此小大已貴  
 命ミメ産名神を加祭ハ大神大物主神社あり此神を加祭

ありて三座と爲るる例ありて此も官帳の趣ハ三座ハ  
 て其所祭ハ惣て四所あり渡りせ給へりけり然る時  
 ハ其和魂神荒魂神の御在り坐す所ハ必其御本體  
 の神副御在り坐す定めと所見たり又此小准りて  
 其主神の御在り坐す宮社ハ必其和魂神荒魂神も  
 必副御在り坐す事も推して知べし此ハ此神の御上の  
 こと非ず惣て小亘りて心得りも爲べき事ありら  
 ず  
然るを神名帳頭注小大和坐大國魂神大歳神子  
 大歳神者素戔鳴尊子母須治比女大和社者大國  
 玉神大歳神須治比女命三座と有れども其ハ古事記  
 小一度誤れを兼て地神本紀小大已貴神の下小御  
 紀と同一く亦云大國玉命と書しあり大歳神兒大  
 國魂神を大和神也と有る依て押當たり祭神の説ハ

公あり可く穴師此等  
 二一書曰大己貴此云  
 於穴師御武智注  
 せり御名略り然  
 時穴師云云下五百  
 小云如大己貴を  
 穴師神申奉り  
 例

全小信りれぬ説ありり上引る惣國風土記小  
 此御社の所在を柳本郷と云るを今ハ新泉村と云  
 る地故其注進狀相殿神二座の 八千戈神の御事  
 ハ己小上 五丁 小注一奉らか如く若て此倭大國魂神  
 を始て被祀一地ハ右 七丁 小注せり穴磯邑あり大市  
 長園岬あり狹井神社の地是あり然して八千戈神の  
 廣茅ハ其穴磯ハ御在坐 九丁 後大和社三座ハ今奉  
 城上郡穴師坐兵主神社 名神大月次 相嘗新嘗  
 其廣茅を以て神体と成させ御在坐す義の御  
 名あり大倭本紀天皇之初天降來之時共副護齋鏡  
 三面子鈴一合也の本註ハ一鏡者云一鏡者云一

鏡及子鈴者天皇御食津神朝夕之食向夜護日護齋奉  
 大神今卷向穴師社宮所坐拜祭大神也と見えたり此  
 穴師社宮ハ同式ハ卷向坐若御魂神社 大月次相 有  
 る此御事あり右の三鏡子鈴共ハ謂ゆる天璽と共  
 小天降一給 一丁 御物あり此廣茅も共あり注進狀ハ  
 此茅亦上古在天皇大殿之内と有が如くあるを崇神  
 天皇六年ハ穴磯邑ハ出奉りたり時子鈴も此ハ初  
 て祀祭らせ給へりありけり然るを垂仁天皇御世ハ  
 山邊郡ハ大倭大神を齋奉らせ給へり時ハ兵主神社  
 小納置けり廣茅を移して相殿神と爲りたり

春日社記小若宮  
外院の兵主明神と  
八十矛神也云云

か子鈴ハ其地小留給ハ水ハ兵主ノ申奉ル神靈を  
元の穴磯小留祭ノ事猶狹井神社の状あり  
可一今兵主神を中ノ若御魂神を右ノ左ハ式  
の穴師大兵主神社小テ惣テ三社あり諸神記近江國  
野洲郡兵主神社條小此神八十矛神也云ハ播磨國  
饒磨郡射楯兵主神社二座を假字風土記ハ大己貴命  
五十猛命二座あり云云云云證ノ爲ベ一清和天皇  
實錄小貞觀元年正月廿七日甲申奉授大和國從五位  
下勳八等穴師兵主神正五位上ノ見也斯レハ諸國ハ  
兵主神社ノ多ク立セ御在ノ坐ハ皆此大己貴神ノ

又傳ニテ卷百  
六丁引ノ播磨風  
土記ハ饒磨郡安  
師里中ニ右祢安  
師里者傳元元神  
戶部仕奉故曰号  
穴師云事有

八十矛神と申す御魂を齋奉り御社共小あり渡りせ  
給へりけり其兵主神と申奉る意ハ下百十小其傳を  
立テ注一奉り可きあり此を神名帳考證小其諸神記  
ハ云テ素戔嗚尊の御事云ハ甚レハ誤あり由其  
所小就テ云を見ベ一如此く見レ時ハ今ハ大和社の  
相殿神あり渡り給へり本ハ穴磯ハ八十矛神  
大市長岡岬ハ大國魂神ノ二所小別テ鎮奉給へり  
者あり故小其跡處も各異ありありけり垂仁天  
皇御世ハ大和社を定させ給へり御時小至りて其  
始宮中ハ御在ノ坐一ガ如ク又相殿神今一所の御歳  
一所小合せ祭れりわころ  
神の御事ハ一も己小傳廿六百十小委一註一奉れ  
るを今ハ此大國魂神の相殿小御在ノ坐す御事ノ  
と云ベ一注進狀小御歳神者守護永穀神也是以ハ握

嚴稻爲神体古語拾遺曰大地主神營田之曰御年神獻  
白猪白馬白雞奉謝無蝗蟲之災年數豐稔故至今天子  
以白猪白馬白雞每年祭御歲神也と有る守護赤穀神  
也ハ營田の事ハ專御功御在一坐す神の謂ありハ握  
嚴稻ハ八束穗と云む如一嚴稻ハ伊豆志祢と訓べ  
り中神武天皇戊午年御紀ハ嚴此云怡途と注して  
糧名爲嚴稻魂女と有る例の清淨あり稲穗と云事ふ  
るハ又舒明天皇前紀ハ嚴此云伊箇之と有る怡途又  
伊箇之共ハ同言ありが祈年祭詞ハ御年皇神等能前  
爾白久皇神等能左奉奥津御年字手肱尔水沫畫

岳白股尔泥畫寄取作年奥津御年字八束穗能伊加  
志穗尔皇神等能依左奉者と有ハ合せて思ふハ八束  
嚴稻と云て八束穗能伊加志穗と云同ト意味ハ不  
む有けり天武天皇六年御紀ハ獻瑞稻玉莖每莖有枝  
其八年ハ貢瑞稻每莖有枝と有る瑞稻ハ近キ語あり  
祥瑞の事ハ取成せりあがり此ハ握嚴稻の事を云  
ふり若て此ハ握嚴稻ハ一も決めて尋常の稲穗ハて  
ハ非ハ傳廿六百二十ハ注りが如く此ハ大地主神の  
御田營り御時御歲神を謝り得させ給へり稲穗  
ありけむを瑞之ハ坂瓊ハ副り天上ハ奉りせ給へり

又傳サニ卷百二十  
三ノ注セラガ知  
式ノ飛彈國大野郡  
水無神社此御歳  
神ノ渡ル也給ヘ  
ト和名抄御名ハ  
菅郡三枝佐以久佐  
阿并阿波有有の  
あす三代實録  
氣多神又本國津  
神ふとの見んたも  
悉く此の傳大國  
魂神社の事ハ合  
ハ相照シテ辨奇  
事ハあり

を其任小天墾ノ共小天降一給ヘリけむを大國魂神  
の皇大宮小御在坐一間ハ一所小置奉ルセ給ヒ  
小此相殿神ハ渡ルセ給ヘ御事ノ侍奉  
レ侍<sup>然</sup>ハ崇神天皇六年小皇大宮を出奉ルセ  
給ヒけ<sup>時</sup>ハ八十戈神を宛磯小大國魂神を  
大市長國<sup>押</sup>祭別セ給ヘ<sup>時</sup>ハ猶此御歳神ハ  
大國魂神ト共小御在坐<sup>給</sup>ル<sup>時</sup>ハ此ハ甚ク以  
縁<sup>給</sup>ル<sup>所</sup>申有<sup>又</sup>注進狀小別社狹井神社<sup>在大和國</sup>  
御事<sup>ハ</sup>又注進狀小別社狹井神社<sup>在大和國</sup>  
傳聞狹井神者大己貴命之荒魂大國魂神即當社別社  
也ト有ハ神名式小城上郡狹井坐大神荒魂神社五座  
歟ト見え<sup>是</sup>即山邊郡大和坐大國魂神社三座<sup>並</sup>  
神大月次ト有<sup>其</sup>舊地<sup>事</sup>同書小所謂大市長岬  
相嘗新嘗

岬今狹井社地是也ト有<sup>小</sup>灼然<sup>事</sup>上<sup>七十</sup>己小  
注<sup>カ</sup>如<sup>一</sup>又注進狀小相殿神四座大物主神姫踏鞴  
五十鈴命勢夜多良比賣事代主神ト有<sup>其</sup>大物主神  
の下小傳聞大物主神者大己貴命之和魂也<sup>中</sup>此神之  
子姫踏鞴五十鈴命神名帳曰大和國城上郡大神大  
物主神社一座<sup>名</sup>神大月次<sup>ノ</sup>書<sup>一</sup>姫踏鞴五十鈴命勢  
夜多良比賣の下小古事記三島隍咋之女名勢夜多良  
比賣<sup>瀧</sup>概<sup>姫</sup>攝津國三島之人神名帳<sup>其</sup>客次<sup>安</sup>麗美  
故美和之大物主神娶其人生子名謂比賣多多良伊須  
須余理比賣故謂大神御子也<sup>中</sup>後參入宮内阿禮坐御



今此式外あり其  
中奉齋媛踏鞢  
五十鈴媛命大物主  
命也、有と正一見  
ら小率川神社に却  
りて此姫神に坐す  
大物主神に御在  
坐あり可し

子名神沼河耳命綏靖天皇神名帳曰大和國添上郡率川坐  
大神御子神社三座と有て事代主神と共小都て五座  
ありが同書率川神社條小大神氏家牒曰とて大神御子神  
姫踏鞢五子守御母三島瀧榎狹井神大已貴命  
十鈴命耳之女玉櫛姫荒魂大國  
命と有て是三座の説あり然ら小大三輪神三座鎮座  
次第小春日三枝神社媛踏鞢五十鈴媛命也と見え注  
進狀小三枝御子社一座傳聞狹井神之子事代主神神  
名帳曰大和國添上郡率川阿波神社と有り然ら此  
狹井神社五座ハ率川神社三座と率川阿波神社と式  
外あり春日三枝神社との神等小亦む渡りせ給ひけり

此御事委一ハ傳廿六九十小注り考合す可一借上  
二十六小注りが如く此小大神荒魂神社と有り誰  
も大物主神の荒魂を祭れりおめりと思ふ物り祭  
る所右の如くありハ其大神小御在坐す大已  
貴神の荒魂和魂神を此小ハ祀りせ給へりありけり  
又率川神社阿波神社春日三枝神社の三所ハ此ハ祀  
る五座の神等を後小祭別りねたハ者ありて有けり  
又注進狀率川神社の別社小園韓神社三座と有り此  
も式外ありて渡りせ給へり甚止事無き所由御  
在り坐ありて神祕令小盃夏三枝祭と有を義解小謂率  
川社祭也と見え注進狀小傳聞園神者大已貴  
命之和魂大物主神也と有り下此神園華飛散之時  
發疫病守護之鎮止之仍云園神歟園殖草木之處也集

第八十九丁上野國佐  
位郡大國神社の所  
考八字可一

解所謂三枝和 靈祭云當社之事と有を集解ハ此  
云麓靈和靈祭之有て其麓靈ハ狹井神の御事ありを  
考合すハ此狹井本社より右の神等を便利の地ハ  
可一迂一奉れハある可一此西所の事を明くむハ  
非ずハ此神等の御事ハ於て又注進狀 別社條ハ丹  
大小盡すハ所存ハ物あり  
生川上神社一座 在同國 吉野郡 此神者雨師神也祈雨止霖奉  
幣不週當社神名帳大和國吉野郡丹生川上神社 名神 大月  
次と有て下ハ延喜式曰凡奉幣丹生川上神者大和社  
神主隨使向社奉之是丹生川上神社為當社之別宮也  
と有奉之より以上ハ臨時祭式の文あるガ凡て別  
社ト云ハ后神トハ兒神を祀れハ社ハ限れハ事あり  
を右の雨師神ハ傳十 百十 小誌せハ如く高靈龍神の

御事ハ渡らせ給へハ此大國魂神ハ於て更ハ由  
無ク心ちあむ為ハを強て思ふハ古事記ハ大穴牟遲  
神の御名を擧て故其ハ上比賣者如先期美刀阿多波  
志都故其ハ上比賣 雖者 率來畏其嫡妻須世理毘賣而其  
所生子者刺狹木俣而返其子云木俣神亦名謂御井神  
也と有ハ上ハ因幡國の郡名ありハ此程の神ハ  
地名を以て号ハ事ハ無クけハ神名ハ起ハ事云  
も更あり故ハ上ハ弥靈龍ハ其高靈龍神ハ亞ハ由あり  
可一御子ハ御井神坐ハ大ハ由有て聞由偕此ハ大己  
貴神の娶給へハ女神ハ有れハも畏其嫡后ハ有れ

△按并坐大神荒魂神  
社五座有之

△大名持神ハ非  
其御魂神ハ申  
世ハ決ハ其荒魂

ハ故有之此大國魂神ハ属ル多ク可シ神名式ハ因幡  
國ハ美郡意上奴神社於皆美能ト訓ベシ又八上郡久多美神社高草郡伊知和神社坐を出雲風土  
記ハ波夜佐雨久多美乃山ト云語見元豐後風土記ハ  
球珠郡球覃郷此村有泉中即有蛇靈謂於云ハ因爲名  
云ト云事有ハ又和名秋郷名ハ上郡佐井有ハ神坐ハ大和國城上郡思寄可ク又其伊和ハ式ハ播磨國  
完粟郡伊和坐大名持御魂神社名神ト有之同郡大倭  
物代主神社坐セハ伊和社ハ大國魂神少ハ和魂神ハ其ハ此ハ並給  
ハ多クありけり若シ其吉野郡ハ大名持御魂神社名神  
次相嘗ト此丹生川上神社ト並坐事右の因幡國の  
新嘗ト式社ト合ラカ上ハ宇陀郡御井神社室生龍穴神社坐

寸事奇ト云ベシ又傳廿六二百三ハ注ト如ハ和

泉國和泉郡泉穴師神社兵主神社坐ハ意賀美神社積

川神社五座缺ト有之社記ハ生井福井細長井波比祇

阿須波神也日根郡國玉神社意賀美神社ハ此ハ生出させ給ハ

カケむト所思由有リ又攝津國東生郡難波坐生

國魂神社二座並名神大月ト有ハ此大國神魂ハ坐事

下百十ハ注ト如ク有ハ小西成郡坐摩神社大月次ハ

其所祭生井福井細長井阿須波波比岐神ハ上ハ三

神ハ御井神を称別ナ御名あり如此ハ大國魂神ト

御井神ト相親ハ殊ハトせ給ハ所以有ト又其意賀美神

と御井神と大の相近く御在り坐す由縁を探索す時  
ハ其極る所右の八上比賣神の歸て此大和社より丹  
生社を別社と爲て齋奉る由來也此小至て明るる  
者あり 右の泉元師神社二座ハ上七十七下注せ  
る大和國城上郡元師坐兵主神社元師大  
兵主神社を合せたるあり又兵主神社ハ八十戈神  
ありて渡りせ給へるハ更あり大鳥郡生國神社大歳神  
社あり坐り皆所以有る事あり又美濃國多藝郡御井  
神社久美雄彦神社坐ハ河内國石川郡美具父留御  
玉神社今下水分社と申して靈神の属あり思合  
す可し又但馬國養父郡兵主神社更杵村大兵主神社  
御井神社氣多郡久乃村兵主神社御井神社坐あり御  
井神ハ大己貴神よりハ大國魂神又兵主神の御方  
ありて殊ハ親しく坐 儲此大國魂神を齋奉り各國の  
あじ思合す可し 神社ハ右の注る神名武の大和國吉野郡大名持御魂

神社（備名神大月） 御在り坐る此を大國魂神と定云ふ  
所以ハ上六十下三十注せるが如く大名持神と申奉る時  
ハ御本体の御名ありて渡りせ給へるを其言を上置  
て大名持御魂神と申す時ハ其主神の御功用を輔相  
奉る神の謂ありて此ありてハ正しく此大國魂神の渡り  
せ給ふ事論を待ず三代實錄小貞觀元年正月廿七日  
甲申奉授大和國從一位大己貴神正一位と有れども  
此ハ上二十下六十引る大三輪神三社鎮座次第ハ依て其  
三社の中小御在り坐す大己貴神の神階ありて此御  
魂神の御ありて但式ハ大名持神社と有る今ハ臨

△セウガ如く伊和  
ハ三輪の轉るり  
照して

△見えし其の中  
九所の御事の後  
小堀邊古記と云  
物小天正の頃物  
社社務五代主水  
正秘記の存遺  
九所神靈一八十  
宇都明理玉姫一  
豊玉清河夜姫

△事美郡中臣崇  
健和社坐傳  
七下小注が如  
十種神の御在  
坐あり

時祭式小依て引あり大和志小在妹山山屈川原屋  
村城内有大海寺社前有潮生洲每歲六月晦潮水湧湧  
故名龍門莊二十一村共預祭祀と見えたり又神名式  
小播磨國完栗郡伊和坐大名持御魂神社名神と有る此を直  
小伊和大神とし申奉りて即神代の故事多在る所其傳風土記小香山里本名鹿  
所以號香鹿來墓者伊和大神占國之時鹿來主於山岑  
果心似墓故號鹿來墓後道守臣為事之時乃改名爲香

○一阿夜健彦雄一夜麻伎小玉姫一豊明姫一五十加姫一玉明麻伎  
堀山阿夜内侍後醍醐天皇御時之八十明豊姫後醍醐天皇御時之八十  
と有て次小堀路惣社九所神靈一刑部大神二座一富姫明神二  
座在吾馬真明神三座一平野明神四座一角岳明神一座一清口  
明神二座一國家明神三座一佐伯明神三座一角明神一坐と有る右  
の神神の坐あり何き此は伊和大神の御子等あり可  
小注

如く此小大己貴命申す即葦原色許男命の御  
事小渡りせ給へり其中九所神祕と有也大名持  
御魂神神りて此大國魂命あり可也然るハ式小因幡  
國高草美郡伊和神社右小注せり如く大國魂神小  
了渡りせ給へり和名枚郷名小同郡美和有れ  
大物主神社式外あり必御在坐り此所思るを此  
小大名持御魂神社大倭物代主神社並坐小甚能符  
令へり三代實録小貞觀元年正月廿七日甲申奉授播  
磨國從五位下勳八等伊和坐大名持御魂神從四位下  
元慶五年六月廿九日乙巳授播磨國從四位下勳八等

△セリッ如く伊和  
△三輪の轉るり  
照して

時祭式小依て引、あり大和志小在妹山山屈川原屋  
村城域内有大海寺社前有潮生洲每歲六月晦潮水湧湧  
故名龍門莊二十一村共預祭祀と見えたり又神名式  
小播磨國完栗郡伊和坐大名持御魂神社名神と有、此を直  
奉りて即神代の故事多在所あり其ハ傳  
伊和大神より申ける少也風土記小香山里本名鹿  
三十一丁ハ古風土記を引て注伊和  
所以號(香鹿來墓者伊和)大神占國之時鹿來來墓立於山岑  
是勿似墓故號鹿來墓後道守臣為掌之時乃改名為香  
山家内谷即是香山之谷形如垣廻故號カキツゲニ家内谷云々  
有、是あり但此御社の御事續風土記と云物小中  
九神秘東五十猛命西大已貴命と有、上五十  
三丁小注、

○此山内谷即香山之谷形如垣廻故號家内谷云云云々有、是あり但此御社の御事續風土記と云物小中九神秘東五十猛命西大已貴命と有、上五十三丁小注、

如く此小大已貴命申、即葦原色許男命の御  
事小渡、せ給へり、中其中九所神秘と有、大名持  
御魂神力て此大國魂神命御、然、式小因幡  
國高草郡伊和神社、右小注せ、如く大國魂神小  
下渡、せ給へり、和名抄郷名小同郡美和有ね、  
大物主神社、式外あり必御在、坐、思、此  
小大名持御魂神社、大倭物代主神社、並坐小甚能符  
合、ハ三代寶錄小負觀元年正月廿七日甲申奉授播  
磨國從五位下勳八等伊和坐大名持御魂神從四位下  
元慶五年六月廿九日乙巳授播磨國從四位下勳八等

△播磨國中伊和坐  
御魂神坐、傳、  
七丁、小注、ハ伊和坐  
十猛神ハ御在、  
坐、

伊和坐大名持御魂神正四位下と見え百練抄ゆ平  
治元年八月二日陣定播磨國伊和社焼亡事見え  
わハ公家の御崇敬し世小殊あり御事知べし和名  
枚郷名小完栗郡伊和と有り諸社説小欽明天皇師安  
元年甲申二月十一日始現座と有れども右小引風  
土記香山の故事ハ神代ゆ有べく又神名式小同國  
明石郡伊和都比賣神社赤穂郡伊和都比賣神社坐し  
其后神と聞え播磨一國小亘りて甚しき神ゆ渡  
りせ給ふ由あり伊和大神の御在し坐ハ神代ゆ  
の事ゆ社壇を被定し其御世の御事ありを始

現座とハ云ふゆ相記小欽明天皇治廿五年託  
伊和恒郷云可祭朕於此地蓋上代之幽契哉翌日忽平  
森中雙鶴刷羽佇立于時恒郷奏上帝營寶基被寄神戶  
併定當國一宮而被授正一位と有り又此社の遙宮ハ  
姫路府小惣社伊和大明神と有り神社啓蒙小傳聞  
當社者以大名持命奉崇云云里顏云七月既望兵士會  
集爲軍旅之威儀云古老損傳云欽明天皇御宇師安元  
年六月十一日當社影向也稱一國守護者天下寶字年  
中也按宰相記云天平寶字八年異賊襲來即遣藤原貞  
國追討云云恐者負國凱旋之日祀焉と有り此小一國

の惣社として祀るハ例の如く國內の諸神を合せ祀  
る物より殊小伊和社と申す御名を頭して齋奉るハ  
實ハ此大名持御魂神ハ一も上小注せらる如く大國  
魂神ありて御在り坐す故あり右の如く伊和坐大名  
小御在り坐して是本宮あり銘東郡姫路小御在り坐す  
正一位勳八等伊和大明神ハ其別社あり又明石赤穂  
二郡小伊和都比賣神社坐ハ后神あり御在り坐す  
くして其國ありてハ所狭き神ありて渡りせ給へるの  
ありて猶餘國ありて因幡國邑美郡小伊和神社  
御在り坐るを和名抄郷名小同郡神戸と有るを以て古  
小甚尊りて御事を曉る可く又神名式小攝津國武  
庫郡伊和志豆神社大月次新嘗と有る伊和ハ右小同  
く志豆ハ別の神あり可くして此ハ大由有るを  
荒原郡大國主西神社秋鞆と見え河邊郡有馬郡小大  
物御有り又大物浦と云ふ見有るを考合す可く備清  
和天皇實録ハ貞觀元年正月廿七日奉授攝津國從五

位下伊和志豆神 備上 六丁 云々 如く諸國あり其  
從五位上と見ゆ 大國魂神某國魂神と申すハ其地の國魂神小坐るを  
其上の立し御在り坐して天下を統御め給ふハ此倭大  
國魂神小渡りせ給へるを又其唯小打任せて大國魂  
神國魂神と申すハ多くハ此倭大國魂神あり中小殊  
小尤けりを此ハ抄出たハ注し奉る可く神名式小  
常陸國眞壁郡大國玉神社坐り常陸國廿八社鎮座小  
在望間城之南五許里大國玉村祭神二座車爲男休宮  
西爲女休宮祀活玉依媛命と見ゆ仁明天皇御紀小兼  
和四年三月戊子常陸國眞壁郡大國主神預官社以此



神殊有靈驗也十二年秋七月辛未奉授常陸國無位大  
國玉神從五位下有少新治郡稻田神社名神坐八其  
御祖小御在一坐同郡鴨大神御子神社八懿德  
天皇御紀小謂鴨主一即事代主神の御子小  
坐せば此神の御孫小當給へる傳廿三五十小  
注せる如一又名抄郷名小茨城郡生國有り此  
大國魂神を生國足國神も生島足島神も申奉る小  
思合す可く又式小多河郡佐波波地祇神社御在一坐  
を清和天皇實録小真觀十七年十二月廿七日丁丑授  
常陸國正六位上三枝祇神從五位下云事の見え

三八上八十小引大三輪三社鎮座次第小春日三  
枝神社媛踏鞮五十鈴媛命也見大倭神社注進狀  
小三枝御子社一座傳聞狹井神之子事代主神名帳  
曰大和國漆上郡率川阿波神社一座有を以思ふ小  
佐波波ハ三枝サキの義カキ割葉ハ多カキ可カキけハ三枝地  
祇是小當可一神名式小那賀郡阿波山上神社を亮  
孝天皇實録小仁和二年十二月九日癸丑授常陸國從  
五位下阿波神從五位上有れハ此カキ率川阿波神  
社同神少カキ事代主神ハ御在一坐カキ可カキ又同録  
小同年六月廿八日丙子授常陸國正六位上郷造神從

△又彦名命カキ由  
云々カキ  
△飛護念神國津  
神の御名カキ思  
△可カキ又

△指傳三十五見奇

五位下と所見たり此郷造神ハ又迹都久理ハ訓ハ  
一丁上四十五小注々々如く此の國造大己貴命を大國  
作神ト申奉るる也甚く謂れ有る御事ハ有る有け  
但大國玉神社ハ並坐る活玉依媛命ハ古事記水垣  
宮段ハ大物主大神娶陶津耳命之女活玉依媛命  
生子名櫛御方命ト有る其和魂神の妻ト爲給へる女  
神あり然るハ大倭神社注進狀ハ率川神社の祭神を  
太神御子神姫踏鞢五十鈴命子守御母三島湍極耳之  
女玉櫛姫殺井神大己貴命荒魂大國魂命ト有る以上  
三座の説あり此ハ殊ハ大物主神あり可き所を大  
國魂神の並坐ハ同ト可き但此事ハ紀記共ハ  
甚く混れたる事の有る實ハ活玉依媛命ハ實ハ  
事代主神の娶給へるあり傳世百十丁ハ云と見  
又神名式ハ上野國佐位郡大國神社御在ハ坐を本  
國神名帳ハ從一位大國玉大明神ト有り和名抄郡

名ハ佐位郷名ハ佐井ト見同帳ハ甘樂郡傍從五位  
上佐位明神ト有り事實ハ其謂ハ有る事共あり右ハ  
丁小注々々如く神名式ハ大和國城上郡狹井坐大神  
荒魂神社五座歟ト所見たりを大倭神社注進狀狹井  
神社條ハ傳聞狹井神者大己貴命之荒魂大國魂神即  
當社別社也ト書ハ其率川神社條ハ狹井神大己貴命  
魂ト有り然ハ大國魂神社を略きて大國神社トハ  
申せらるる猶右の神名帳ハ群馬郡正五位上大國玉  
明神那波郡從三位國玉明神ト見元確永郡從四位  
上若國玉明神ト申ハ有天孫降臨章ハ顯國玉之女

子下照姬亦名高姬亦名稚國玉有小思合可又上三十四下  
小注如山田郡賀茂神社美和神社式小見光神  
名帳小甘樂郡從一位宗岐明神從五位上億津宮明神  
群馬郡正五位上息津宮明神群馬西郡從三位息津宮  
明神坐謂由宗像神小御在坐由傳十五  
三百八小註又多胡郡正五位上郡御玉明神縁野郡  
十四下小從五位上郡御玉明神利根郡從四位上郡玉明神勢多  
郡正四位下郡玉明神佐位郡從四位上郡玉明神新田  
郡正五位上郡玉明神邑樂郡從五位上郡玉明神有  
此大國魂神屬國魂神有國魂神屬了郡

魂神の坐由此國限了詳小傳ハレ有也  
甚美ナ事有又神名式小陸奥國磐城郡大國  
魂神社和名抄郷名小當郡和有倭大國魂神社小  
思合セを磐城名勝略記云物小在城東一里  
六所菅波村祭神大物主神例祭二月初午有云ハ  
但大物主神此相座小御在坐心を大國魂神の  
御名を脱レ傳ナ有可又同郡佐麻久嶺神社  
を同書小在城巽二十余所祭神五十猛命例祭四月八  
日有右八下十小注神名式小播磨國宍粟郡伊和  
坐大名持御魂神社名神ハ此大國魂神有小五十猛

△又神名式謂小  
佐渡國羽茂郡度  
津神社五十猛神  
御在坐坐和名敷  
小賀茂郡見又  
其郡小賀茂佐爲  
の二郷有之佐爲  
右小注せ大國魂  
神小由有地名  
を思合す可

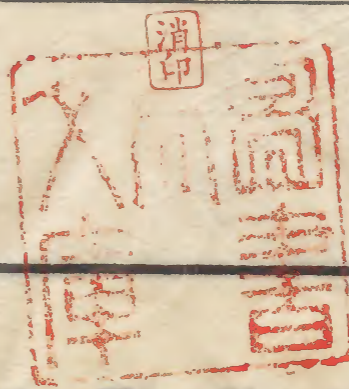
神も其相殿小坐一同郡大倭物代主神社も坐小相符  
合ひ又因幡國邑美郡中臣崇健神社ハ五十猛神高草  
郡伊和神社ハ大國魂神小坐一邑美郡美和郷有之又  
常陸國那賀郡香山神社ハ五十猛神あり小眞壁郡大國玉神  
社御在坐あども思ふ小此三神如此並坐中あり  
五十猛神と大國魂神と殊小親しく渡せ給ふ所  
縁あり御在坐す御事所見たりけり故此大國魂  
嶺神社ハ右の如く播磨國小由有御神等あり小已  
小傳サ七卷七十丁小云りか如く陸奥國色麻郡伊達  
神社名神大と有小播磨國饒磨國射指兵主神社揖  
保郡中臣印達神社名神大坐一又和名抄郷名小饒磨  
郡迎達伊多知と有之と陸奥郡名郷名神名共小相合  
ハ上古より播磨より陸奥に移住せ給へりあじの御

△姓氏録右京神別小  
八八造和名罪豊至  
命兒布留又摩命  
之後也、有之、大和  
若孫同様あり別れ  
武ありけり、其大和  
坐大國魂神社あり  
奉りありけり、下  
は考合す可

事ありや御在坐たりけむ又神名式淡路國三原郡大和大國魂  
神社名神と有之此を今本大字を脱せを臨時祭式  
名神祭條小大和大國魂神社一座と有之訂正して今  
補ひつ文徳天皇實録ハ仁壽元年十二月壬寅詔以淡  
路國大和大國魂神列於官社也、有之、神祇官  
承万記ハ淡路國二宮と有之、今八太村三宮と申せり如く右の  
如く一座小渡りせ給ふ也、古來二社並立せ御在  
坐す御事ハ他小考及ぶ、阿波國美馬郡小倭大  
國玉神大國敷神社二座と有之、其祀々所相等同ト  
御在坐あり可、備此敷ハ上四十一小注せり、九丁如く

葦原醜男神と申すも葦原敷男神と云ふが等しく此も  
其義ありしめて對馬島土縣郡島大國魂神社御在り坐  
み並ひて下縣郡敷島神社渡りせ給へるの同しあり  
ぬ可ければ國魂神の國敷神と共み御力を併せ御在  
り坐て國土經營の功をたまはせ御在り坐めり此ハ別  
神ハ御在り坐り此大國魂神を稱別たる御名あり  
可き事下百六ふ生島足島神の所小説を併せ見べし  
あり其生島神詞ハ皇神能敷坐島能八十島者中島能  
八十島墜事無皇神能依左奉故略下有此大國魂神の御事ありしあり出  
雲風土記島根郡山口郷條ハ須佐能鳥命御子都留伎

日子命詔吾敷坐山口處在詔而故山口貝給又方結郷  
條ハ須佐能鳥命御子國忍別命語吾敷坐地者國形宜  
者故云方結あり有て如此く其地を區別て敷坐神の  
國中悉く多く坐を其を統領め給ふ義を以て大國敷  
神ハ祢奉りありあり万葉二二十ハ小天皇之敷坐國  
等天原石門午開神上上座奴三十七ハ高輝日之皇子  
茂座大殿於又ハ皇神祖之神也乃御言乃敷坐國之  
盡又三十安見知之吾王乃敷座在國中者京師所念又  
四十大皇之敷座國内日刺京思美弥尔六十四ハ荒  
野等丹里者雖有大王之敷座持者京師跡成宿又四十



八隅知之吾大王乃高敷為日本國者皇祖乃神之御代  
 自敷座流國尔之有者八十五丁小敷座流國乃波多豆尔  
 十八十九丁御代可佐祢天乃日嗣等之良志久流伎美  
 能御代御代之伎麻世流四方國尔波又三十須賣呂伎  
 能之伎麻須久尔能安能之多四方能美知尔波十九十  
 丁小大王之敷坐國者京師年母此間毛於夜自等二十  
 二十丁小之伎麻世流難波宮尔伎已之米須四方乃久尔  
 五丁有ハ此の大國敷神の敷是与ハ其五十四鎮懐  
 石歌ハ美豆豆可良意何志多麻比豆可武奈何良可武  
 佐備伊麻須久志美多麻伊麻能遠都豆尔多布刀伎呂

明治七年七月二十日  
 菅政文

